

東京国立文化財研究所要覧：昭和59年度

出版年月日	1985-08-10
URL	http://doi.org/10.18953/00008581



東京国立文化財研究所要覧

1984

昭和 59 年度

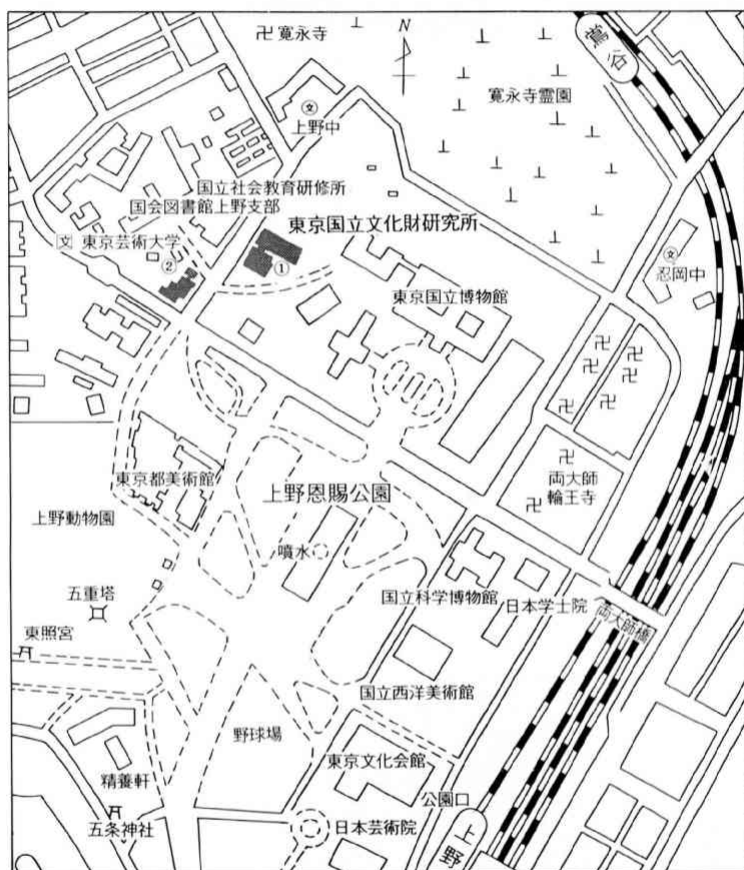


所長室・庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部



美術部・情報資料部

東京国立文化財研究所建物所在図



は　じ　め　に

昭和59年度は、人事面で大きな変動を迎えた年であった。すなわち、59年4月には、長年文献資料研究室長を務めた上野アキ氏が定年を迎えられ、また主任研究官江上綾氏が上智大学教授に転出された。空席であった美術部長に柳澤孝室長が就任し、その他室長にも移動が及んだほか、文化庁から三宅久雄主任研究官を迎え、また榊田絵美子、島尾新の両新人を得た。かような大異動は、近年まれなことであった。一方庶務課においても、二年間程の短期ではあったが大活躍の久保庭課長が文化庁に栄転し、代って奈良国立文化財研究所から笹山課長が着任した。最後になったが、長い間縁の下の力持ち的役割をよくはたし、研究所になくってはならない存在であった高成一雄氏が、59年10月、不慮の交通事故でなくなったのは、一大痛恨事であった。御冥福を祈りたい。

ここに改めて、去られた方々の御苦勞を謝するとともに、この機をとらえ、研究所が益々新しい活動に向うよう期待している。

研究面では、当研究所が特に力点を置いている特別研究のテーマ更新の時期であった。そこで、期間中の研究成果をまとめて公表することが大きな任務となっているが、本年度は、保存科学・修復技術両部の成果として、「石造文化財の保存と修復」が刊行された。各方面のお役に立つことと信じている。

研究促進のためコンピューターを利用することは、すでに学界の常識であるが、われわれの分野においても、ようやくその機が訪れようとしている。情報資料部を中心とした若い所員の熱意は必ずや近い将来大きな成果を生むものと期待される。

国際交流面でも活発な年であった。研究集会は、前年に引きつづき、壁画(2)をテーマとした。また所員の海外での活躍もさかんで、なかでも増田及び伊藤は、それぞれユネスコ・イクロム主催の世界的な講習会に講師として招かれた。

東京国立文化財研究所長

伊　藤　延　男

目 次

I. 沿革	1
1. 設立の経緯	1
2. 年 表	1
3. 歴代所長	5
II. 機構と職員	6
1. 機 構	6
2. 職 員	7
3. 名誉研究員	9
III. 調査研究	10
1. 所 長	10
2. 美術部	10
(1) 概 要	10
(2) 研究調査活動	12
A. 一般研究	12
B. 特別研究	15
C. 科学研究費	16
3. 芸能部	18
(1) 概 要	18
(2) 研究調査活動	19
A. 一般研究	19
B. 特別研究	21
C. 科学研究費	21
4. 保存科学部	22
(1) 概 要	22
(2) 研究調査活動	23

A. 一般研究	23
B. 特別研究	28
C. 受託研究	29
D. 科学研究費	29
5. 修復技術部	30
(1) 概 要	30
(2) 研究調査活動	31
A. 一般研究	31
B. 特別研究	34
C. 受託研究	34
D. 科学研究費	36
6. 情報資料部	37
(1) 概 要	37
(2) 研究調査活動	38
A. 一般研究	38
7. 主要研究業績	39
8. その他の研究活動	56
IV. 事 業	58
1. 出 版	58
(1) 美術研究	58
(2) 日本美術年鑑	59
(3) 芸能の科学	59
(4) 保存科学	59
(5) 石造文化財の保存と修復	60
(6) 国際研究集会プロシーディングス	62
2. 黒田清輝巡回展	64
3. 公開学術講座	64
4. 夏期学術講座	65

5. 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	67
6. 会 議	69
7. 国際・国内交流	72
V. 研究施設・設備	81
1. 蔵 書	81
2. 出 版 物	82
3. 資 料	86
4. 機 器・設 備	87
5. 黒 田 記 念 室	94
6. 閱 覧 室	95

I. 沿革

1. 設立の経緯

東京国立文化財研究所は、昭和27年4月1日発足したのであるが、その前身であり母体となったものは、昭和5年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、大正13年7月、故帝国美術院長子爵黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選定を伯爵牧野伸顯に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原隼二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、また我が国美術上の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年 表

昭和元年12月 前記の事業を遂行するため委員会が設備され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業について東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列について東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建築造営について東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務について遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。

昭和2年2月 美術研究所準備事業を開始した。

同年10月 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192m²の建物1棟を起工した(本館)。

同3年9月 前記の建物が竣工したので、美術研究所開設のため必要な備品・図

沿革

書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、同子爵の作品を陳列した。

同 4 年 5 月 遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。

同 5 年 6 月 28 日 勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校正木直彦が同研究所の主事に補せられた。

同 年 10 月 17 日 美術研究所開所式を挙行了た。

同 7 年 1 月 美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物「美術研究」を創刊した。

同 年 4 月 18 日 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

同 年 5 月 26 日 帝国美術院はこの申出を受理した。

明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。

同 9 年 10 月 18 日 毎年10月18日を開所記念日と定めた。

同 10 年 1 月 28 日 鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。

同 年 4 月 「日本美術年鑑」の編纂事務を開始した。

同 年 6 月 1 日 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。

研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。

同 12 年 6 月 24 日 勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。

同 年 11 月 29 日 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。

同 13 年 2 月 12 日 木造、平屋建、延面積97㎡の写真1室棟が竣工した。

同 19 年 8 月 10 日 黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。

同 20 年 5 月 28 日 美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目本間家倉庫3棟に疎開した。

同 年 7 ～ 8 月 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之

丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。

同21年3月29日 酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。

同 年4月4日 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し引揚げを完了した。

同 年4月16日 東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開中であった黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。

同22年5月1日 美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。

国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた。これが保存科学部の前身である。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室(66㎡)に設けた。

同 24 年 4 月 本年度から科学研究費補助金により光学的方法による美術品の鑑識に関する研究が開始された。

同25年8月29日 文化財保護法の制定に伴い、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。

昭25年9月15日 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。

同26年1月31日 美術研究所組織規程(昭和26年文化財保護委員会規則第5号)が定められ第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。(昭和25年8月29日から適用)

同27年4月1日 東京文化財研究所組織規程(昭和27年文化財保護委員会規則第7号)が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。

また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。

同 年7月1日 芸能部研究室として東京芸術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。

同28年4月26日 保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ、移転した。

同29年7月1日 東京文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和29年文化財保護委員会規則第1号)、東京国立文化財研究所となった。

沿 革

同32年 3月22日 東京国立博物館構内に木造，外部鉄網モルタル塗，平家建，8㎡の
保存科学部の薬品庫が竣工した。

同 年11月30日 従来の2階建書庫のうえに更に1階を増築3階建とし，増築分延面
積71㎡が竣工した。

同34年 4月30日 国立文化財研究所研究受託規程(文化財保護委員会告示第14号)が定
められ，この年度から受託研究が開始された。

同36年 9月16日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和36年文化財
保護委員会規則第1号)，従来の庶務室は庶務課となった。

同37年 3月31日 東京国立博物館構内に保存科学部庁舎(保存科学部実験室)として，
鉄筋コンクリート造2階建延面積663㎡の建物1棟が竣工した。

同 年7月1日 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され(昭和37年文化財
保護委員会規則第1号)，新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。

同 年7月20日 芸能部研究室は，保存科学部庁舎の竣工に伴い，旧保存科学部庁舎
に移転した。

同43年 6月15日 文部省設置法の一部が改正され(昭和43年法律第99号)，本研究所は
文化庁附属機関となった。

同44年 8月23日 保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎(延1,950.41㎡)の起
工式が行われた。

同45年 3月25日 前記の別館が竣工したので，同年5月26日竣工式が行われた。

同45年 4月22日 芸能部は，別館3階に移転した。

同45年 5月8日 保存科学部は，別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を終っ
た。

同45年 6月29日 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し，同年10月15日工事が
終了した。

同 年11月2日 所長及び庶務課は，本館から保存科学部庁舎の1階に移転した。

(本館は，美術部庁舎となる。) したがって研究所の所在地表示は「12番53号」が「13
番27号」に変更された。

同46年 4月1日 保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658㎡を東京国立博物館から所管
換された。

同48年 4月12日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和48年文部省令第6号)新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。

同52年 4月18日 文部省設置法施行規則の一部が改正され(昭和52年文部省令第10号)情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。

同53年 3月20日 本館構内の写真場等(木造平家建延面積 144㎡)を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積565.95㎡の建物が竣工した。

同59年 6月28日 文部省組織令の改正(昭和59年政令第227号)により、本研究所は文化庁施設等機関となった。

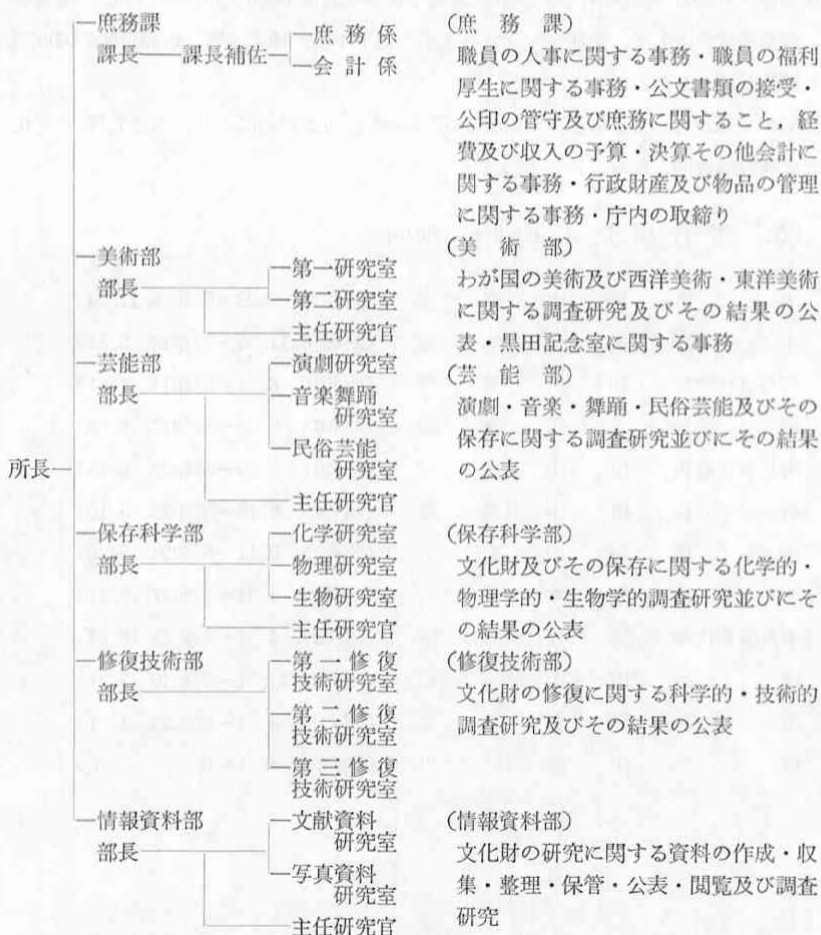
3. 歴代所長(昭和5年～昭和59年)

主 事	正 木 直 彦	(昭和 5. 6. 28～昭和 6. 11. 24)
主 事	矢 代 幸 雄	(昭和 6. 11. 25～昭和10. 5. 31)
所長事務取扱	和 田 英 作	(昭和10. 6. 1～昭和11. 6. 21)
所 長	矢 代 幸 雄	(昭和11. 6. 22～昭和17. 6. 28)
所長事務取扱	田 中 豊 蔵	(昭和17. 6. 29～昭和22. 8. 15)
所 長	田 中 豊 蔵	(昭和22. 8. 16～昭和23. 5. 10)
所 長 代 理	福 山 敏 男	(昭和23. 5. 11～昭和24. 8. 30)
所 長	松 本 栄 一	(昭和24. 8. 31～昭和27. 3. 31)
所長事務代理	矢 代 幸 雄	(昭和27. 4. 1～昭和28. 10. 31)
所 長	田 中 一 松	(昭和28. 11. 1～昭和40. 3. 31)
所 長	関 野 克	(昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1)
所 長	伊 藤 延 男	(昭和53. 4. 1～現 在)

Ⅱ. 機構と職員

東京国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として設立された文化庁の施設等機関である。その機構等は次のとおりである。

1. 機 構



2. 職 員

(昭和60年3月30日現在)

所 属	職 名	氏 名	
所 長	所 長	伊 藤 延 男	(日本建築史)
庶 務 課	課 長	笹 山 保 美	
	課 長 補 佐	西 山 博 朗	
庶 務 係	係 長	斎 藤 多 賀 子	
	庶 務 主 任	松 本 節 子	
	事 務 補 佐 員	中 村 有 喜 子	
	"	太 田 真 由 美	
	"	滝 澤 美 智 子	
会 計 係	調 査 員(非)	松 原 昇 登	
	係 長	相 澤 下 祥 子	
	係 員	山 田 直 美	
	事 務 補 佐 員	鎌 田 忠 雄	
	"	年 代 木 ヅ キ	
	技 能 補 佐 員	佐 々 木 ツ 孝	(仏教絵画史)
美 術 部	業 務 補 佐 員	松 田 澤 正 之	(日本仏教絵画史)
第一研究室	部 長	柳 関 口 悦 子	(和漢書道史)
	室 長	田 村 榮 子	(染織工芸史)
	主 任 研 究 官	田 實 久 雄	(日本彫刻史)
	"	三 宅 英 夫	(日本近世・近代絵画史)
第二研究室	室 長	三 輪 道 信	(日本近代絵画史)
	研 究 員	佐 藤 絵 美 子	(日本近代絵画史)
	"	榊 田 治 雄	(民俗芸能)
芸 能 部	部 長	三 隅 藤 道 子	(寺院芸能)
演劇研究室	室 長	佐 藤 本 郷 昭	(中世芸能)
	調 査 研 究 員(非)	蒲 生 智 恵 子	(音楽学)
音楽舞踊研究室	室 長	山 田 智 恵 子	(音楽学)
	調 査 研 究 員(非)	羽 田 昶	(日本演劇)
民俗芸能研究室	室 長	中 村 茂 子	(民俗芸能)
	主 任 研 究 官	井 幸 二 郎	(芸能史)
	調 査 研 究 員(非)	仲 井 幸 二 郎	

機構と職員

所 属	職 名	氏 名	
保 存 科 学 部	部 長	江 本 義 理	(分析化学)
	室 長	馬 淵 久 夫	(同位体化学)
化学研究室	主 任 研 究 官	門 倉 武 夫	(無機分析化学)
	室 長	見 城 敏 子	(塗料化学)
物理研究室	主 任 研 究 官	石 川 陸 郎	(光学)
	"	三 浦 定 俊	(計測工学)
生物研究室	技能補佐員(非)	富 澤 威	(分析化学)
	室 長	新 井 英 夫	(微生物学)
	調査研究員(非)	森 八 郎	(応用昆虫学)
修 復 技 術 部	部 長	鈴 木 友 也	(日本工芸史)
	室 長	中 里 寿 克	(日本工芸史)
第一修復技術研究室	研 究 員	西 浦 忠 輝	(木材材質改良学)
	専 門 職 員	茂 木 曙	(彩色保存技術)
第二修復技術研究室	室 長	増 田 勝 彦	(日本工芸史)
第三修復技術研究室	室 長	樋 口 清 治	(高分子化学)
	研 究 員	青 木 繁 夫	(考古学)
情 報 資 料 部	部 長	宮 次 男	(日本中世絵画史)
	室 長	猪 川 和 子	(日本彫刻史)
文献資料研究室	主 任 研 究 官	米 倉 迪 夫	(日本中世絵画史)
	研 究 員	島 尾 新	(日本中世絵画史)
事務補佐員(非)	事務補佐員(非)	竹之内 玲 子	
	"	保 坂 と き 子	
写真資料研究室	室 長	鶴 田 武 良	(中国絵画史)
	研 究 員	鈴 木 廣 之	(日本近世絵画史)
	専 門 職 員	橋 本 弘 次	(美術写真)
	"	市 川 和 正	(")
	"	野久保 昌 良	(")

昭和59年度における転退者

所 属	官 職 名	氏 名	在 職 期 間	備 考
庶 務 課	庶 務 係 長	能 村 浩 次	56. 4. 1~59. 4. 1	文部省へ転出
	調 査 員(非)	竹 中 弥 生	52. 9. 8~59. 7. 31	退 職
	技 能 補 佐 員	高 成 一 夫	53. 9. 1~59. 10. 9	死 去

機構と職員

所 属	官 職 名	氏 名	在 職 期 間	備 考
美術部 芸能部 情報資料部	技能補佐員	薄井祥子	57. 7. 1~59. 12. 31	退職
	庶務課長	久保庭伊佐男	58. 4. 1~60. 2. 1	文化庁へ転出
	事務補佐員	小木喜代子	55. 4. 1~60. 2. 8	退職
	主任研究官	田村悦子	22. 6. 16~60. 3. 31	"
	調査研究員(非)	山田智恵子	59. 4. 1~60. 3. 31	"
	"	松本 雍	44. 9. 1~60. 3. 31	"
	文献資料研究室 長	上野 アキ	17. 11. 3~59. 4. 1	"
	"	猪川和子	22. 6. 27~60. 3. 31	"

3. 名誉研究員

氏 名	退職時官職名	在 職 期 間	名誉研究員 発令年月日
白 畑 よ し		5. 6. 30~27. 8. 1	53. 10. 18
福 山 敏 男	美 術 部 長	23. 5. 11~34. 4. 15	"
高 田 修	"	27. 12. 1~44. 3. 31	"
岩 崎 友 吉	修復技術部長	27. 4. 1~49. 5. 31	"
登 石 健 三	保存科学部長	27. 10. 1~50. 4. 1	"
岡 畏三郎	美 術 部 長	20. 5. 15~51. 4. 1	"
中 村 傳三郎	美術部第二研究室長	22. 10. 1~53. 4. 1	"
関 野 克	所 長	40. 4. 1~53. 4. 1	"
秋 山 光 和	美術部第一研究室長	21. 10. 1~42. 2. 1	54. 10. 18
久 野 健	情 報 資 料 部 長	20. 5. 31~57. 4. 1	57. 10. 18
川 上 涇	美 術 部 長	21. 2. 28~57. 4. 1	"
関 千 代	美術部第二研究室長	18. 12. 15~58. 4. 1	58. 10. 18
横 道 萬里雄	芸 能 部 長	28. 3. 16~51. 4. 1	59. 10. 18
上 野 アキ	情報資料部文献資料 研究室長	17. 11. 3~59. 4. 1	"
江 上 綏	情報資料部主任研究 官	38. 5. 1~59. 3. 31	"

昭和59年度における名誉研究員の異動者

氏 名	退職時官職名	在 職 期 間	摘 要
松 本 榮 一	美 術 部 長	24. 8. 31~27. 10. 1	59. 7. 2死去

Ⅲ. 調査研究

1. 所 長

(1) 日本建築史の研究

従来よりの継続として行っているものであって、本年度は引き続き平安時代に重点を置いた。

(2) 日本建築技法の研究

科学研究費 特定研究「古文化財」の一部として行ってきた「文化財建造物の構造力学的研究」のフォロー・アップの意も含めて行っている研究であって、本年度は木造建築構造における貫接合部の力学的研究を前年度にひきつづき行った。成果の具体的内容については、修復技術部の項を参照されたい。本研究には同部西浦忠輝が参加したほか、東京大学教授杉山英男、同助手安藤直人両氏の協力をも願っている。

(3) 文化財保護制度史研究

従来よりの継続として史料整理を行った。特に本年度はヨーロッパにおける保護制度史の研究家であるヨキレット氏との意見交換によって、得る所大であった。

2. 美 術 部

(1) 概 要

美術部は日本・東洋の古美術並びに日本の近代・現代美術とこれらに関連ある西洋美術についての基礎的調査研究を行い、かつその成果を公表することを目的としている。美術部は二室より構成され、古美術は第一研究室が担当し、近代・現代美術は第二研究室の担当である。

研究調査は各時代にわたり絵画・彫刻・書蹟・工芸の各部門について、作品と文献史料との両面から実証的に進められており、共に基礎となる研究資料の作成と整理とに努めているほか、現代美術の動向に関する調査と資料収集をも平行して行っている。また作品に関し、早くから実施してきた科学的な鑑識法を積極的に活用している

美術部

のも当部の特色である。さらに情報資料部所員とは研究や調査の面で緊密な協力が行われている。昭和59年度からは4か年計画で情報資料部と共同の特別研究「壁画・障壁画の実証的研究」(代表者 柳澤 孝)が始まり、その関係資料の収集を進めた。また科学研究費補助金による共同研究としては「日本美術における中世より近世への様式展開についての実証的研究」(一般研究(A) 代表者 関口正之),「明治前半期の博覧会, 美術展覧会に関する基礎資料の収集と研究(一般研究(B) 代表者 三輪英夫),「科学的方法による古代中世仏教絵画の代表的作例に対する再検討」(総合研究(A)代表者 柳澤 孝)の三件があり、それぞれに成果を収めた。そのほか他機関との共同研究による広領域の研究にも参加している。なお研究員それぞれの研究課題と内容は(2)研究調査活動の項に示す通りである。

研究調査の結果は、第一研究室全員が編集担当する機関誌『美術研究』(昭和7年創刊)やその他の学界誌に発表し、また第二研究室が中心とする『日本美術年鑑』(昭和11年創刊)を発行しており、また随時単行の研究報告書も刊行している。そのほか情報資料部との共同で、研究成果の一部を広く一般の理解に資するため、毎年1回公開学術講座を開催し、また58年度より若い専門家育成のための夏期学術講座を開催している。なお黒田清輝の遺産に基づいて創立された美術研究所、現美術部は黒田清輝の作品その他関係資料を保管し、その多くを陳列する黒田記念室は毎週1回木曜日の午後公開している。

第一研究室

日本及び東洋諸地域の古美術について、各研究員が専門とする領域と時代を中心に調査研究を進め、主要問題を捉えた共同研究を行い、常に精密な基礎資料の収集に努めている。また、科学研究費補助金による共同研究として「日本美術における中世より近世への様式展開についての実証的研究」(一般研究(A) 代表者 関口正之)に分担参加した。なお第一研究室の研究員が「美術研究」の編集業務を担当している。

第二研究室

明治以降の日本近代美術に関する調査研究と、これに関連する西洋美術及び日本近世の洋風美術の調査研究、並びに現代美術の動向に関する資料の収集と調査とを継続

調査研究

して行っている。また、科学研究費補助金により共同研究として「明治前半期の博覧会、美術展覧会に関する基礎資料の収集と研究」(一般(B) 代表者 三輪英夫)を行った。とくに現代美術に関する調査研究においては、その年度に収集した資料を整理し、その成果を『日本美術年鑑』として毎年公刊している。本年度は、昭和57年の内容をもった昭和58年版を刊行し、引続いて59年版の編集に着手した。

また、研究事業として昭和52年度以降実施してきた黒田清輝巡回展は当研究室が中心となって行われ、今年は10月から11月にかけて広島県立美術館において開催された。

(2) 研究調査活動

A. 一般研究

1. 美術基準作品の研究

わが国古代中世の美術工芸品のうち、国宝・重要文化財あるいはそれに準ずる優作で、年記銘を有する作品あるいは作者・流派・様式等を代表するもの等、美術史上の基準的作品について詳細に考察し、併せて文献史料の検討をも加え、美術工芸遺品の体系づけに役立てる。

(1) 仏教絵画の調査研究

基準作として有名な教王護国寺蔵五大尊(5幅)及び同寺旧蔵京都国立博物館蔵十二天(12幅)について、それぞれ詳細な調査を実施した。(柳澤・関口)

米国ニューヨーク、パブリック・ライブラリー内スペンサーコレクションの白描図像類、メトロポリタン美術館蔵白描図像、フリア美術館蔵如意輪観音像等、未紹介の図像類や代表的作品の調査を行った。(柳澤)

東京・西方寺蔵阿弥陀三尊来迎図の調査及び西明寺三重塔壁画の調査を行った。(関口)

(2) 日本仏教彫刻史研究

鎌倉時代初頭の仏師快慶の様式形成と、いわゆる安阿弥様の伝承についての研究を進めた。また慶派仏師の在銘作例(静岡桑原薬師堂薬師三尊、修禪寺大日如来ほか)を中心に、現地実査による資料収集に努めた。(三宅)

(3) 染織品の研究

1) 上代裂の研究

東京国立博物館所蔵の法隆寺裂・正倉院裂の基礎調査を続行している。(田實)

2) 近世初期染織品及び小袖の研究

米沢市の上杉神社蔵上杉謙信所用服飾類の調査、宮城県白石市の片倉家伝来服飾類の調査・研究、和歌山市の紀州東照宮伝来服飾類の調査、日光山輪王寺伝来の胴着三領の調査・研究を昭和58年度に引続き行った。(田實)

3) アイヌ染織品の調査・研究

室町時代以降のわが国染織品に関連が多く、また原始的要素が濃厚に残っているアイヌ染織品について、昭和58年度に引続き調査・研究を続行した。(田實)

4) 東京芸術大学美術学部中野政樹代表者の科学研究費補助金の「日本工芸基礎資料集成とその技術に関する研究」の分担者として、昭和58年度に引続き染織品の基礎資料調査を行った。(田實)

2. 科学的方法による材質と技法の研究

X線透過法、赤外線写真、紫外線蛍光法、双眼実体顕微鏡、赤外線テレビ等を用いた科学的方法により、わが国美術工芸品の材質・技法・構造などを明らかにする。

(1) 古代中世絵画の材質技法に関する研究

1) 法界寺阿弥陀堂四天王柱絵の調査研究

特別研究の一環として、赤外テレビカメラによる調査を実施した。(柳澤・関口)

2) 真言八祖行状図の調査研究

汚損や補修の著しい行状図8幅について、前年度に引続き科学的方法を援用して調査を実施し、一部の考察を発表した。(柳澤)

3) 鶴林寺太子堂壁画と四天王柱絵の調査研究

太子堂は仏後壁表裏並びに四天王柱絵は甚しく黒化し、図様が判別し難いのに対し、赤外線テレビカメラによる大掛な共同調査を実施し、成果を収めた。(柳澤)

(2) 金銅仏の材質技法に関する研究

東京国立博物館が実施している法隆寺献納宝物特別総合調査のうち、γ線透視撮影他の方法を用いた四十八体仏の材質・鑄造技法などの調査研究に参加した。(三宅)

(3) 伝統的染織技術の調査研究

昭和56年10月末に修復が完了した片倉家伝来小紋胴服(重文)の復元に山辺知行氏、長板中型染の松原四兄弟、共立女子大被服研究室との共同研究で昭和58年以来続行し

調査研究

て来たが今年度に仕立も完了した。日光山輪王寺伝来胴着三領の修復・復元メンバーは、片倉家伝来小紋胴服の修復・復元と同一で、一領の修復は昭和57年度に完了、二領の復元も今年度完了した。また日本工芸会で昭和53年度から続けている東京国立博物館蔵「白地風景模様茶屋染帷子」の復元も今年度は7年目に入り下絵が完成した。

(田實)

3. 美術様式とその伝播の研究

わが国美術工芸に見られる様式の展開と系統を、インド・中国・朝鮮や西洋諸地域など諸外国にその源流を探り、その影響と受容の様相を明らかに位置づけると共に、国内における史的展開を体系化する。一方、日本以外の外国各地の美術に関してもそれぞれ様式的検討を行う。

(1) 仏画における大陸影響に関する調査研究

鎌倉時代仏教絵画の様式研究に資するため、米国ボストン美術館蔵陸信忠筆十六羅漢図(16幅)の調査を行った。(柳澤)

(2) 現存する中国絵画の包括的再検討と国内国外における補足的調査

東京大学東洋文化研究所戸田禎佑教授を代表とする共同研究に参加し、写真資料による検討を加えた。(柳澤・関口)

(3) 日・中美術史特に書道史の研究

1) 来舶書画の研究

江戸時代には、和漢の書蹟並びに絵画の類について研究批評鑑賞し、これを記述した書画記の類をつくった学者や趣味人も少なくない。これらは今日でも和漢書道史や一般には東洋芸術史の研究者に益すること少なくないものであるが、梅堂浅野長祚の『漱芳閣書画銘心録』はその尤なるものである。その銘心録の萌芽ともみるべき『墨華塾書画銘心録附本朝書画銘心録』(文化財研究所蔵)を研究し、これを美術研究誌上に発表し、且つ本文(索引を附した)も鉛印して学界に提供した。その研究の中で特に中国画の模本作成に関する興味ある事例を指摘した。(田村)

(4) パーミヤーン壁画の研究

先年に引継ぎ、成城大学調査隊によるパーミヤーン壁画の共同研究に参加し、報告書作成のための作業を続行した。(柳澤)

4. 作家・流派及び美術団体の研究

著名な作家の伝記と作品、作家の属する流派や美術団体の活動などを網羅的に調査して、実体を明らかにする。

(1) 日本近代美術基礎資料の研究

近代美術に関する未発表の宛書簡研究を継続して行い、林忠正宛書簡の解説及び内容の検討(三輪、情報資料部米倉・鈴木)、黒田清輝宛書簡の解説と関連資料の研究を進めた。(三輪・榊田) また、明治期に刊行された雑誌資料の調査研究を行った。(佐藤・榊田)

(2) 日本近代作家研究

1) 近代洋画家研究

黒田清輝、久米桂一郎、岡田三郎助、満谷国四郎ほか白馬会、太平洋画会系の作家の画歴及び作品の調査研究を行った。(三輪・榊田) また、久米桂一郎自筆文献を調査し、主要文献を編集刊行した。(三輪)

2) 近代日本画家研究

村上華岳、入江波光、狩野芳崖の作品の調査研究を行った。(佐藤)

(3) 昭和初期美術団体に関する研究

昭和初年から戦前に至る美術団体の資料を調査し、その動向、特性を研究した。(佐藤)

B. 特別研究

「壁画・障壁画の実証的研究」(研究代表者 美術部長 柳澤 孝)(4か年計画の初年度)

本研究はわが国古代・中世・近世にわたる社寺建造物等の内部を飾る壁画・障壁画を研究対象とする。これらの中には画面の剝落や褪色等の劣化著しいものが少なくなく、よって科学的な鑑識法による詳細な調査を実施し、それぞれの材質や技法及び様式的特色を明らかにすると共に、文献的考察をも加え、それらの美術史的立場づけを行おうとするものである。本年度は先年来実施してきた赤外線テレビカメラによる法界寺阿弥陀堂四天柱絵の調査を完了し、顕著な成果を収めた。

調査研究

C. 科学研究費

「科学的方法による古代中世仏教絵画の代表的作例に対する再検討」〔総合研究(A)〕

研究代表者 柳澤 孝, 研究分担者 秋山光和, 田口榮一, 百橋明穂, 山崎一雄, 三浦定俊)

本研究は日本古代中世仏教絵画の代表的作例のうち、様式や技法並びに図様の上で問題を含む以下の諸作品を取上げ、科学的方法による詳細な調査と撮影を実施し、もって従来諸説に対して再検討を加えようとするものである。

1. 京都国立博物館蔵(旧教王護国寺蔵)十二天(12幅)。本図は一般に大治2年(1127)の制作とされてきたが、近年十二天のうち梵天・風天の2幅は大治の焼失以前、長久元年(1040)の作と見る説が提示された。これは平安後期における仏教絵画の様式展開を繞る問題に極めて重要な関連をもつことから、この説を検討するため精密な調査を実施した。

2. 教王護国寺蔵五大尊(5幅)。本図も前記十二天と同時期に制作されたもので、従って十二天の様式技法の検討には本図をも併せ考える必要があり、そこで五尊について同様に赤外線写真やX線透過写真などによる周到な調査を行った。

3. 鶴林寺太子堂壁画並びに四天柱絵。天承3年(1112)の建立という太子堂は堂内の大部分を彩画で荘厳されていたもので、しかし薫煙で黒化し、図様の弁別も容易でないのが現状である。壁画や柱絵の一部に関しては既に紹介されているものの、何れも充分とはいえないため、今回は四天柱絵に重点をおき、その全面にわたり赤外線テレビカメラによる調査を実施し、数多くの新知見を得ることができた。

「日本美術における中世より近世への様式展開についての実証的研究」〔一般研究(A)〕
研究代表者 関口正之, 研究分担者 宮 次男, 米倉迪夫, 鈴木廣之, 島尾新, 三宅久雄, 田實栄子, 鶴田武良, 田村悦子)

本研究は、絵画・彫刻・工芸・中国美術の四つの分野から調査研究を平行して行った。絵画班は、先ず説話表現の様式展開を検討するために八幡縁起絵の諸本、法然伝絵の諸本、拾遺古徳伝、西明寺三重塔壁画を調査した。また、中世から近世にかけて絵画の主題・図様を伝播させた扇面画形式に着目して式部輝忠筆扇面画60面(東京・戴本家蔵)他を調査して資料収集に着手し、次いで、同一主題の作例を比較して表現の広がりや考察する例として天神図をとりあげ、古熊神社蔵天神図他を調査した。さら

に中世から近世にかけての時期を生きた一人の画家を通してこの時期をとらえるために岩佐又兵衛の作品を調査研究した。以上のことと平行して、大画面作品の遺例に乏しいこの時期の様式展開を探る手段として画中国画資料の収集と研究を開始し、個々の資料を様々な角度からの検索に応じられるようにパーソナル・コンピュータを利用した資料整理に着手した。彫刻班は在銘像を中心に基準作品を検討するため愛媛・太山寺の諸像をはじめ、静岡・長源寺の薬師三尊像、滋賀・円福院の釈迦如来坐像、大阪・北十万の阿弥陀如来立像、熱田神宮の仮面その他を調査した。工芸班は重要作品である片倉家伝来小紋胴服、伊達家伝来羅紗陣羽織を調査するとともに、中世末に制作された染織品をアイヌの染織資料の中に見出すために北海道開拓記念館、旭川市立郷土資料館、小樽市博物館、釧路市立郷土博物館において保管資料を調査した。中国美術班は大阪・橋本家や長崎地方所在の舶載中国絵画書蹟関係資料を調査し日本絵画書蹟へ与えた影響を考察するための資料を収集することができた。

「明治前半期の博覧会、美術展覧会に関する基礎資料の収集と研究」(一般研究(B) 研究代表者 三輪英夫、研究分担者 佐藤道信、榊田絵美子)

本研究は転換期美術としての特性をもつと考えられる明治前半期美術の動向を体系的かつ正確に把握するために、この時期の内外博覧会、美術展覧会の基礎資料を収集し研究することを目的に、本年度は計画調書に記載した計画に従い下記のことを行った。

1. 第3～5回内国勲業博覧会に関する文献を内閣文庫、大阪府立図書館等で調査し、その出品図録を基に日本画、洋画、彫刻、工芸の分野別に全授賞者及び審査官を含む主要作家の出品作のリストを作成し、カード化した。また、これらの作品に関する文献及び図版等を当時の美術雑誌及びその後の展覧会カタログ等から検索しカードに記載した。

2. 明治美術会の第1～5回までの初期展覧会の出品リストを整理し、作家別に出品作をカード化し、上記内国勲業博覧会と同様の資料整理を行った。

3. 上記内国勲業博覧会、明治美術会展の出品作の現所蔵先を調査し、従来未調査のものから優先的に、広島県立美術館、京都国立博物館、東京芸術大学をはじめ各所蔵先において作品の調査及び写真撮影を行い、分類整理した。

4. 日本参加の万国博覧会については文献調査に着手し、数点の出品作については

調査研究

調査及び写真撮影を行った。

5. 上記のことを併行し、研究分担領域においてこの時期の出品作の主題や作風の推移についての検討を行い、とくに変動の顕著な明治20年前後に焦点をあて総合的な研究を行った。

これらの調査研究により、明治前半期の美術の動向が従来の主要作家研究だけの視点とは異なって、より具体的かつ体系的に動向の特性を把握することができつつある。

3. 芸能部

(1) 概要

芸能部は、日本の伝統芸能に資するために必要な基礎的研究を行うことを目的とし、演劇研究室・音楽舞踊研究室・民俗芸能研究室の三室より構成されている。芸能部の研究目標としては、諸芸能の理念・構造・技法及びその継承保存に関する研究などがあり、その研究に必要な資料の収集・整備及び記録の作成のための撮影・録音・録画などの作業を行う。また研究の結果は刊行・夏期学術講座・公開学術講座などによって公表する。

本年度は、共同研究としては「狂言の技法の研究」「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」の課題に対して、研究員が2、3名ずつ組んで調査を行った。また特別研究として、今年度から4か年計画で「伝統芸能の保存組織のあり方の研究」を行うことになり、研究員全員で調査研究を行った。科学研究費補助金による研究としては、「東アジア文化圏からみた沖縄舞踊技法の特質とその舞踊譜化の研究」(一般研究(B) 研究代表者 三隅治雄)と「遠隔地に残存する悔過会の調査研究」(一般研究(C) 研究代表者 佐藤道子)が行われた。そのほか、各研究員は個々に研究課題を選んで実証的な研究を行った。

以上、各研究員による共同・各個人の諸研究はいずれも文化財行政に直接間接に寄与する基礎的な調査研究であると同時に、わが国の芸能研究を推進せしめ、日本芸能学の樹立に貢献する基盤となる重要な研究である。

また、月例の研究会活動として、各研究室ごと、あるいは複数の研究室共同で、外部の研究者・演奏者をまじえての研究集会をひらいている。本年度は「能楽技法研究

芸 能 部

会」「二月堂研究会」「長唄正本研究会」「民俗芸能研修会」を行った。また、昨年に引き続き、一般研究者や芸能研究を志す学生を対象としての夏期講座を7月9日から4日間行った。本年のテーマは「悔過会とその周辺」であった。また、恒例の公開学術講座は12月6日に「民謡の技法」のテーマで、朝日ホールで行った。

演劇研究室

演劇研究室は、日本古典演劇について芸能学的・演劇学的に調査・研究を行い、またこれら諸芸能の周辺にあって、伝統芸能の成立に深い関係をもつ諸分野についても調査研究を進めている。

本年度は、個人研究として「寺院行事の研究」を行い、共同研究として「狂言の技法の研究」を行った。また科学研究費補助金による研究として「遠隔地に残存する悔過会の調査研究」(一般研究(C) 代表者 佐藤道子)についての調査・研究を行った。

音楽舞踊研究室

日本の音楽と舞踊について、芸能学的・音楽学的な調査・研究を行い、これら伝統芸能の成立に深い関係を持つ周辺分野についても、調査研究を進めている。

本年度は個人研究として「邦楽用語の研究」「声明の音楽的研究」「義太夫節の音楽的研究」を行った。

民俗芸能研究室

全国各地に分布伝承する民俗芸能を対象とし、それらの芸能の保存・活用に資するために必要な研究を行っている。本年度は、個人研究として「田楽芸の研究」を行い、共同研究として「民俗芸能の民俗的基盤の研究」「民俗芸能伝承方法の研究」「民謡の研究」「話芸・寄席芸の研究」「狂言の技法の研究」を行った。

(2) 研究調査活動

A. 一般研究

1. 寺院行事の研究

寺院行事が内包する多種多様な要素の中から芸能的要素を抽出し、各宗派にわたる

調査研究

総合的比較研究を行い、その変遷・分化をあとづけることを一貫した目的とする。本年度は、「弘法大師1,150年遠忌」に関わる諸法要の实地調査を金剛峯寺において行い、延暦寺「御修法」に修される六十年一会の「安鎮家^{あんちんか}国法^{こくほう}」の实地調査を行った。

また、別記科学研究費補助金による研究と関連して、東北地方・中国地方西部・福島等遠隔地に残存する悔過会の調査、若狭神宮寺・新潟無為信寺の所蔵史料調査・撮影、各種文献による仏事法要の分析研究を行った。(佐藤)

2. 能の演出史の研究

能の演出面の変化を、詞章面だけでなく面・装束・囃子などの構成要素全般の変遷をたどることによって考えようとした。今年度は＜開口＞について考察した。(松本)

3. 邦楽用語の研究

邦楽の用語は、分野ごとにまちまちな使われ方をしている。本研究は、それらを総合的に把握・整理して、同語異義、異語同義などの様相を明らかにし、新しい用語体系の確立に資することを目指とする。本年度においてもその一部を達成した。(蒲生)

4. 声明の音楽的研究

仏教音楽の声明にも、宗派とは別に、いくつかの流派があるので、それらを広く比較して、各流派の音楽的特質を明らかにするとともに、他種目の音楽との影響関係も追究した。(蒲生)

5. 義太夫節の音楽的研究

義太夫節の地合の音楽構造を解明するため、現行曲を採譜分析し、本年度は主にマクラの部分について研究した。(山田)

6. 田楽芸の研究

田楽芸を機能的・形式的に細分類してみることによって、田楽芸の構造を明らかにするための調査研究を行った。(中村)

7. 民俗芸能の民俗的基盤の研究

芸能を、その行われる季節・場所・参加者(演者・観客を含む)などの面から取りあげる連続した研究の一環として、「道中の芸能」に関する調査研究を行った。(三隅・仲井)

8. 民俗芸能伝承方法の研究

各種民俗芸能の伝承方法について資料の収集・分析を行った。(三隅・中村)

9. 民謡の研究

日本の民謡の研究において、民謡の芸謡の要素を無視してはその全き姿をとらえることができないという観点より、上代から近世に至る日本の民謡伝承の上に占める芸謡の位置を究明する目的をもって、前年度に引き続き近世歌謡の分析を行い、あわせて童歌の、特に遊戯歌の芸謡的要素についての調査研究を行った。(仲井・三隅・中村)

10. 話芸・寄席芸の研究

落語を主として話芸・寄席芸を対象とする近世芸能の研究を安原コレクション邦楽レコードの整理を通じて続行中である。(三隅・仲井)

11. 狂言の技法の研究

狂言の「型」、とくに狂言小舞の動作単元を整理・分類する作業を続行し、流派間の異同・能の動作単元との比較等の調査を行い、和泉流における小舞の動作単元一覧を作成したのに続いて、大蔵流の動作単元一覧を作成した。(羽田・松本)

B. 特別研究

「伝統芸能の保存組織のあり方の研究」(4か年計画の第1年次)

人から人への技芸の伝達によって保存が可能になる伝統芸能にあっては、その伝達を正確、かつ強固に行わしめる保存伝承組織の確立が望まれる。そのため、過去の伝承組織の諸相を考察し、また現に各地にある保存会・養成会・愛好会等の実態を精査し、それらの分析を通して、伝統芸能の、文化財としてのより完璧な保存組織のあり方を研究する。本年度は民俗芸能を対象とし、その各地の組織の現状調査を行った。

C. 科学研究費

1. 「東アジア文化圏からみた沖縄舞踊技法の特質とその舞踊譜化の研究」

(一般研究(B) 研究代表者 三隅治雄 研究分担者 宜保栄治郎)

わが国の伝統芸能の一翼を占める沖縄の舞踊は、その歴史的、地理的状况から、周辺の中国大陸・東南アジア・太平洋諸島群との交流を深めて、独特の様式・技法を確立するに至った。本研究ではそうした沖縄舞踊の技法を、周辺諸国の舞踊と比較しながら分析を行い、その汎アジア的特質を解明するとともに、その技法の舞踊譜化を実現させようとするものであるが、本年度においては、沖縄の古典舞踊の技法を、沖縄

調査研究

在住の多数の伝承者を流派別に選んでビデオ撮影した。また、インド・タイ・韓国の各民族舞踊のビデオ撮影も行い、沖縄のそれとの比較分析を行った。

2. 「遠隔地に残存する悔過会の調査研究」

(一般研究(C) 研究代表者 佐藤道子, 研究分担者 松本 雅, 永村 真)

全国に残存する悔過会事例の中、これまで未調査であった遠隔地の調査を行うことにより、悔過会伝承の現状を把握し、文献史料の分析と併せて、悔過会についての集約的考察を行うことを目的とした。目的に従って東北地方一円、近江湖北・湖東一帯、岡山以西の瀬戸内一帯、嵯峨島等の調査を完了し、以上によって悔過会伝承の状況をほぼ全国的に把握することができた。目下悔過会の意義や史的展開をあとづける作業を行いつつあり、その成果の一部を芸能部夏期学術講座において発表した。

4. 保存科学部

(1) 概 要

文化財の材質・構造に関する科学的研究、並びに文化財のおかれている保存環境の自然科学的研究を行い、これらを基礎として文化財の保存に関する技術的研究を行っている。研究成果は文化財の指定・保存対策・修復処置の基礎資料として役立てられている。また文化財の年代測定・産地推定の研究も手掛けている。

研究組織は、化学研究室、物理研究室、生物研究室の3室から成っている。調査研究の結果は、修復技術部と共同の機関誌「保存科学」により公表される。

修復技術部との共同研究である、特別研究「石造文化財—石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究」は最終年次(第8年次)として、研究成果をまとめ、報告書の出版を行った。

受託研究は修復技術部と共同の「国宝、重文日光社寺建造物に関する研究」を行った。

科学研究費「彩色文化財の劣化と保存に関する実証的研究」(試験研究(1))は、修復技術部と共同で各担当者が分担課題について調査研究を行った。(36頁参照)

化学研究室

文化財及びその保存に関する化学的調査研究(分析化学的調査研究を含む)、並びに

その結果の公表を職務としている。

内容としては、微量分析、非破壊分析、同位体分析によって、主として無機物質の材質とその劣化に関する研究、原料産地に関する研究を行っている。

物理研究室

文化財及びその保存に関する物理的調査研究並びにその公表を職務としている。具体的には、文化財の材質・構造を知るために、 γ 線・X線・紫外線・赤外線などを用いた非接触的な手法を開発し、応用する研究を行っている。

また、展示・収蔵・梱包輸送などの保存環境に関し、温湿度・照明・アルカリ汚染因子などが文化財に与える劣化の影響を把握し、劣化を防止するための研究とその応用を行っている。

生物研究室

文化財及びその保存に関する生物学的調査研究とその公表を職務としている。文化財の生物(微生物、昆虫等)による被害の実態調査、生物劣化要因並びに劣化機構の調査研究、加害生物防除法の研究並びに開発を行いこれを実践している。

(2) 研究調査活動

A. 一般研究

1. 文化財の材質・構造に関する研究

(1) X線分析

1) 蛍光X線分析

青銅器、建築彩色、ガラス絵、腐食生成物等につき主として非破壊の方法により、試料を採取できたものに対しては、X線回折分析を併用して材質を分析し、技法との関連を調査した。(江本)

2) 可搬式X線回折装置による非破壊的材質調査

顔料、さびの基礎データの蓄積、絵馬等による非破壊測定の検討。(江本・門倉)

(2) 鉛同位体分析

昨年度に引き続き、新たに300点余の資料を測定した。この中には次のような資料

調査研究

が含まれる。

1) 大源太遺跡出土変形四獣鏡

古墳時代前期の仿製鏡であるが、鉛は舶載三角縁神獣鏡と同じ同位体比を示した。

2) 愛知県朝日遺跡出土銅滴(愛知県教育委員会)

弥生時代末期の遺跡から出土した非常に珍しい資料である。完全な金属光沢をもちほとんど純銅に近い化学組成をもつ。この中に含まれる鉛は中国北部の産であることが確認された。弥生時代の青銅原料の出所についての大きな手掛かりとなるものとして貴重である。(馬淵)

(3) X線・ γ 線撮影

1) 法隆寺献納宝物特別調査 —東京国立博物館—

金銅仏調査に参加し、 γ 線による構造調査、非破壊的蛍光X線分析による材質及び製作技法等の調査を行った。 γ 線透視撮影の結果をもとに「法隆寺献納宝物特別調査概報Ⅴ 金銅仏1」(昭60.3, 東博)が刊行された。(三浦・石川・江本)

2) 文化財指定のための基礎調査

文化庁の依頼で基礎資料作成のためX線・ γ 線透視による構造調査を行った。(石川・三浦)

金銅仏 薬師寺(石川)

薬師三尊像

一乗寺(兵庫)

観音菩薩像

木彫 新光明寺(静岡)

阿弥陀如来立像

安養寺(奈良)

〃

八葉蓮華寺(大阪)

〃

3) γ 線透視撮影法の定量化

金銅仏などの青銅製品を透視撮影する時の鉛スクリーンの効果、フィルムを選択について基礎的な検討を行い、0.1~0.3mm厚の鉛箔スクリーンと工業用X線フィルム(I X 100)の組合せが最適なることを明らかにした。(三浦・群馬高専 呉屋充庸氏と共同研究)

(4) その他

1) 漆の採取時期との漆の組成及び性状との関係の研究

丹波の漆かきの方の協力で、漆液の採取直後の成分、性質を調査している。(見城)

2) 鉄製文化財の劣化に関する研究

主としてX線回折, X線マイクロアナライザーにより, 鉄錆の分析を行い, 錆の種類と生成条件について, 出土鉄器の錆を中心に錆の生長過程を追求している。(門倉)

3) 油彩画に対する紫外線の応用

特に色別, 材質別の反射率について実験を行った。(石川・橋本)

4) リモートセンシングの文化財への応用

墨書土器の字の判読は赤外線テレビカメラを用いても難しいが, 適当な分光画像処理をすることにより鮮鋭度が増すことを確かめた。(三浦)

2. 文化財の保存及び展示環境等に関する研究

(1) 施設内の環境調査

主として展示室, 収蔵庫内の温湿度, 照明等の環境の測定・施設のシーズニングの検討を行い, 展示, 保存環境としての適否に関しモニター等を用いた調査を実施している。(江本・見城・石川)

岩手県立博物館	(岩 手)
鋸南町民俗資料館(菱川師宣記念館)	(千 葉)
神奈川県立近代美術館	(神奈川)
鎌倉国宝館	(神奈川)
岐阜市博物館	(岐 阜)
宇治市歴史資料館	(京 都)
向日市文化資料館	(京 都)

(2) 建造物内陣壁画保存環境調査

京都: 二条城二の丸御殿大広間四之間において, 襖絵に対する温湿度, 日照, 紫外線に関する影響を測定し, 書院内の保存環境条件を解析し国際シンポジウム(東文研)に報告した。(見城)

(3) 光モニターの開発

文化財の劣化に与える照明の影響を, 学芸員が簡便に評価できる光モニターを開発し, 応用している。(見城)

(4) 低照度下における高演色性光源の試作に関する研究。

現在全国の展示に用いられている無紫外線蛍光灯は, 4500Kのもので200~300ルッ

調査研究

クスの雰囲気での演色性は優れているが、低照度下においての演色性は、決して優れてはいない。したがって、3000～3200Kの無紫外線の新型蛍光灯を開発中である。

(石川)

(5) 展示環境における海塩粒子の挙動

海に近い資料館において、展示室内に侵入する海塩粒子の測定を行った。開館前では、展示室内で外気の約1/100、ケース内ではそれ以下であった。(門倉)

3. 文化財の生物劣化とその防除に関する研究

(1) 実態調査と防除対策

文化財に被害を及ぼす生物(微生物、昆虫等)の実態調査を行い、被害の状況に応じた防除対策を検討して助言・指導を行っている。本年度は、下記の調査と防除対策を実施した。(新井・森)

- 1) 国立国会図書館が所蔵するビルマとの交換図書に加害虫が認められ、その被害状況の調査と防除処理を実施した。(新井・森)
- 2) 気象庁の図書資料管理室では、書庫で作業を行うとかゆみを覚える職員が多いので、その原因究明を依頼された。書庫で試料を採集し、その対策を助言した。(新井・森)
- 3) 文化庁美術工芸課から長岳寺蔵の重文木造阿弥陀如来像に発生したカビの調査を依頼され、送付を受けた試料からカビを分離・同定し、その結果と防除対策を提出した。(新井)
- 4) 奈良県教育委員会文化財保存課から、唐招提寺新収蔵庫の燻蒸に際し、壁体に用いられているシボレックスに対する燻蒸剤の挙動の調査を依頼されたので、シボレックスのガス透過性、吸着性、蒸散性及び燻蒸方法を実験検討して報告した。(新井・森)

(2) 生物劣化と防除法の研究

文化財に発生する生物起因の劣化要因と劣化機構についての研究並びに文化財の生物劣化防除方法の研究開発を行っている。本年度は、下記の事項について実施した。

(新井・森)

- 1) 紙の褐色斑(foxing)の部位から選択的にカビを分離できるようになり、分離菌株の分類学的研究を行った。さらに、分離菌株中に紙に再接種してfoxingを

再現し得る菌株の存在していることも明らかとなった。(新井)

- 2) foxing 要因糸状菌及びその他の糸状菌が代謝生成する有機酸を、細管式等速電気泳動法で分析し、foxing 要因糸状菌の生成する有機酸には特徴のあることが判明した。(新井)
 - 3) 紙のfoxing部位を収集して抽出し、foxing部位の成分を分析すると、foxing 要因糸状菌が代謝生成する有機酸と一致する結果が得られた。(新井)
 - 4) 低毒性の硼素剤を混入したセルロース素材のゴキブリに対する効果試験を実施し、家屋害虫の防除にきわめて有効であることが判明した。(森)
 - 5) 北海道江差沖に沈没した開陽丸の船体部材の海虫による劣化防除方法を検討中である。(森)
- (3) そ の 他
- 1) ボール・ゲティ保存科学研究所の招請を受け渡米。当研究所の生物研究室開設に必要な助言を求められた。(新井)
 - 2) 文化財の長期保存法として2軸延伸ビニロンフィルムを用いた環境制御法を研究開発しているが、本方法について欧米の研究者と討論し高い評価を得た。すなわち、フリア美術館、米国議会図書館、ボール・ゲティ保存科学研究所、現代美術館(ニューヨーク)、カナダ保存科学研究所、英国国立美術館等である。(新井・見城・森)
 - 3) インドネシアにおける文化財の生物劣化研究の開始に必要な事項について助言した。(新井)
4. 考古遺物遺跡等に関する考古化学及び保存に関する研究

(1) 遺跡等の保存

1) 虎塚古墳(茨城)

i) 覆土の熱伝導性に関する調査研究

墳丘覆土と石室内環境との相関性を検討するため、温度測定を行い、年間のデータをまとめた。(見城)

ii) 公開施設について

史跡虎塚古墳では、石室内の温度上昇を防ぐため公開時に石室の外から採光していたが、玄門の陰になり観察に不都合を生じていた。3mのガラスファイバー

調査研究

ライトを石室内に挿入する方法を試み良好な結果を得た。現在内部環境への影響を測定中である。(門倉)

2) その他

福岡・特別史跡王塚古墳の保存整備委員会に委員として参加し、調査及び対策立案を行った。

山梨・丸山塚古墳、茨城・花園古墳3号墳及び千福寺横穴群の壁画に使用されている、主として赤色の物質の材質分析を行った。また、石室、石組等の保存対策を立案、一部処置を実施した。(江本)

(2) 遺物に関する研究

1) 遺跡から出土した有機物の同定

出土した有機物を赤外分光光度計、ガスクロマトグラフィー、電子顕微鏡によって、同定した。(見城)

2) 出土遺物中の抽出塩類の分析

イラン出土壺の脱塩処理液について、イオンクロマトグラフィー、X線マイクロアナライザーによる解析を行った。(門倉)

(3) 水中引揚げ遺物に関する研究

1) 北海道、江差開陽丸船体一部の保存

海底に横たわる船体の海中での海虫による被害の防除対策として、銅板及びビニールシートで覆う方法をとったが、テストピースによる実験を併行して実施している。(江本)

B. 特別研究

石造文化財一石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究(8年継続、第8年次、修復技術部と共同研究、34頁参照)

石造文化財及び付随する材料として、煉瓦、瓦類の焼成品、土壁、たたき等に関して、それらの劣化機構の解明、保存管理方法及び強化修復技術の確立を総合的に推進させるのを目的としている。

本年度は下記の調査研究を重点的にを行った。(修復に関しては修復技術部の項を参照)

(1) 凍結融解による石の劣化の研究(北大低温研, 福田正己氏と共同研究)

1) 凍結破壊をおこす境界温度条件

実験室内での温度変化サイクルで, 最高温度を 10°C に固定し, 最低温度を 2°C ずつ違えて, 凍結融解試験を行った所, 最低温度が -6°C 以下になると破壊が著しくなった。また最高温度を $+4^{\circ}\text{C}$ にすると, 凍結した石が融解しきれないために, 凍結破壊があまりおきなかった。野外で実際に, $-4 \sim +4^{\circ}\text{C}$ 程度の気温変動の繰り返しで凍結破壊が起きている理由は, 放射冷却や日照の影響により, 岩石表面温度が気温以上に変動しているためと考えられた。

2) 気象調査

凍結破壊のおきやすい地域をしらべるために, $-4 \sim +4^{\circ}\text{C}$ 以上の日気温変動のあった日が一年に何日あったかを, アメダスのデータ(全国 838 地点)をもとに調査した。関東地方や九州北部の太平洋側内陸部でその頻度が高く, これらの地域では水分の供給があれば石造文化財が容易に凍結破壊をうけることが示された。また新潟県の一部や, 北海道東部など積雪があって, しかも頻度が高い地域では, 3, 4月の融雪期に凍結破壊の心配がある。

最終年次として, 従来の本研究の成果を報告書としてまとめ刊行した。(60頁参照)

C. 受託研究

国宝, 重文, 日光社寺建造物の保存に関する研究(栃木, 修復技術部と共同研究)

大猷院二天門の黒変現象の原因追求に関し, ケヤキ, スギ, ヒノキの彩色手板を作成し実験室内で黒変の再現実験を行っている。ケヤキ材の塗装膜表面には浸出物が認められ, カビが発生するが, 他の材には認められない。(新井・見城・江本・中里)

D. 科学研究費

「アジア, 中近東地域鉛鉱石の鉛同位体比システムティクス」

(一般研究(C) 研究代表者 馬淵 久夫)

中国・朝鮮半島・日本列島の古代青銅器文化の流れを, 原産地の視点から追うための比較データとして, アジア諸地域の鉛鉱石200試料の同位体比を測定し, 地域ごとの同位体比変動の規則性を明らかにした。同手法を考古資料・美術資料へ応用する際の有用なデータになるであろう。

調査研究

5. 修復技術部

(1) 概要

修復技術部は、文化財の修復に関する科学的調査研究とその公表を主務とする部で、保存科学部が主に文化財の保存にかかわる科学的分析研究をつかさどる部であるのに対し、修復技術部は老化破損した文化財を修理または復元する方法を科学的に調査研究している。

研究対象としては、絵画、書跡、彫刻、工芸品、考古資料、出土遺構および木造構造物及びその組織や細部に描かれた絵や彩色、石造構築物などに及ぶ極めて広範囲の文化財があげられる。

研究組織としては、3研究室、6研究員、1専門職員からなっている。

第一修復技術研究室

木材及び漆を主材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的研究とその結果の公表を主務とする。

第二修復技術研究室

紙、繊維又は皮革を材料とする文化財の修復に関する科学的、技術的研究とその結果の公表を主務とする。

第三修復技術研究室

石、金属、土又はその他の無機材質の文化財の修復に関する科学的、技術的研究とその結果の公表を主務とする。

各研究室とも、経常的な研究として、有形文化財を構成している材料、構造、製作技法についての研究や、それらを修復するための伝統技術の整理体系と科学的裏付けの資料集積、そして更に科学的な材料、技法の修復への応用と開発のための実証的な研究などを実施しており、とくに材質強化、補強、接合、剥落防止、朽損部充填などについて各種合成樹脂の応用と技法の開発に努めている。

これらの研究過程においては保存科学部との共同研究が必要な部分もあり、また部内においても、一つの文化財が二つ以上の研究室にまたがる複合的な材質からなる場合も多く、それらについては各研究室員による共同作業によって研究が進められている。

(2) 研究活動

A. 一般研究

1. 伝統的製作技法及修復技術の研究

(1) 漆芸品の研究

西ドイツ・シュツットガルト市リンデン国立民族学博物館蔵の中国漆器の修復が中島淑枝氏によって第一修理アトリエで行っているが、今年度は3年目に入り、約8点が搬入された。修理に先だって技法調査を行った。又龍藏寺蔵鎗金扉の修復に関連し、光明坊蔵の鎗金経箱の調査を行った。

その他、防府市毛利博物館蔵の婚礼調度品約百点の調査を行った。(中里)

社寺等古建築の外装化粧材料としての漆塗膜の基材(木部)への密着強度とその耐久性についての、平面引張り強度試験による実験的研究を継続的に行っている。耐久性の判定には、劣化促進処理(温水処理、煮沸処理、ウェザーメーター処理、屋外曝露処理)を行っており、強度試験の他にカラーメーター、グロスメーターによる色、艶の変化も測定している。試験片は、実際に文化財建造物の修理を行っている漆塗装技術者あるいは漆芸家が塗装したものをを用いている。(西浦・中里)

(2) 装潢技法の研究

伝統的技術としての装潢技法に関する調査研究を継続している。正倉院蔵屏風の調査は今年度で終了した。屏風関係技術用語の収集は一昨年から継続している。(増田)

2. 彩色文化財の合成樹脂等による保存修復の研究

江戸後期の泥下地彩色像(十二神像の戌像)に対し試験的修復処置を行った。方法は重炭酸アンモンによるクリーニング後、厚手顔料層の剝離をバラロイドB72濃厚溶液とアクリルエマルジョン系感圧接着剤で接着した。彩色欠失部は市販品の水性塑形材を下塗りし、研磨したのち顔彩で着色して仕上げた。しかし、この種の剝落どめは未解決の問題が多く、今後の研究が期待される。(樋口)

調査研究

重要文化財、仁和寺五重塔内部彩色の剝落どめ処置の事前調査を行った。彩色面積は約144㎡あり、その90%以上の彩色が遺存しているが、現在急速に剝落が進行中である。このような江戸期の彩色の剝落どめは従来からしばしば問題の多いものであり、抜本的な処置が必要と判断し、約100cm²の表面を和紙で養生した状態でバラロイドB72の10～15%溶液を注射器で剝離面に強制的に注入する処置を試験的に行った。この方法では、4～5人/㎡の手間を要すると思われた。実際の施工には実地指導をしていない。この剝落どめの要点はどの程度入念に処置がなされるかにある。(樋口)

3. 木造文化財の合成樹脂による修復技術の研究

重要文化財、燈明寺本殿の外陣大虹梁と側柱2本の修復について樹脂処置指導を行った。梁の構造荷重は小屋組みの中に別に新材の梁を入れて受け、旧梁は形体保存を目的とし、欠失部はできるだけ新材を樹脂で接合し、合成樹脂の充填やFRPの補強は最小限度にとどめた。1本の側柱は柱芯部の腐朽部分を削り抜き、健全な柱肌を片蓋状にして新補柱に貼り合せた。もう1本は表面の腐朽部を削ぎとり、新補材の芯部を削り抜いた片蓋状したもので根継ぎを兼ねた矧ぎ継ぎを行った。これらの接着方法は、接合部に点接着をして硬化させた後、接着間隙にエポキシ樹脂を注入して接着した。(樋口)

4. 文化財建造物の構造力学的研究

本研究は東大農学部木質材料研究室と共同で行っているものであるが、本年度は、実大軸組試験体の水平耐力試験を東大で行い、各ぬき接合部の強度と軸組全体の強度との関係について解析、考察した。(伊藤・西浦)

5. 石造文化財の保存修復に関する研究

鳥取県、史跡池田家墓所の第6代公墓の砂岩製玉垣の樹脂修復処置を実地指導した。接着にはアラルダイトCY230とエポメートB002を主体にし、適宜粘度を調製して使用した。笠石の接合には鋼材の補強材を挿入した部分もある。大きな欠失部には新石材を接着し、見地だけを樹脂擬石で繕うように指導した。別に第10代公墓の門の笠石(推定重量600～700kg)が中央から2に折れたものを径30mm長さ1800mmの鋼材丸棒を接合部の側面に樹脂で埋め込み接着し、その部分は樹脂擬石仕上げとした。(樋口)

福島県小高町、史跡薬師堂石仏は昭和42年に修理されているが、近年再び岩片の剝離剝落が激しくなったので調査した。岩面から突出している仏体は乾燥しておりほと

んど異状ないが、湿潤な箇所に損傷が多くみられ、風化の原因が主に凍結、塩類析出によるものであると思われた。保存対策としては、水利工学的また分析化学的調査が先ず必要である。(樋口)

熊本県湯前町、重要文化財・明導寺七重石塔の修理のための事前調査を行った。この塔は現在四重までが遺存されているが、今回、残欠を集めて七重塔に復原を予定している。調査の結果、欠損部の補足はできるだけ新石材を樹脂で接合し、樹脂擬石は最小限度にとどめることにしたが、風化消耗の甚だしい残欠と新石を調和よく結合させるのはかなり困難が予想される。また、風化石材のSS101による含浸は、水濡れによって石が黒くなるので行わないことになった。但し最小限の撥水処置は保存上必要なたためシランモノマーの撥水剤(アロンAWS-VX)を検討することにした。(樋口)

名古屋市、重要文化財・旧名古屋高等裁判所の修理に伴う事前調査を行った。石材、煉瓦、コンクリートなどの亀裂充填、補強方法などにつき調査した。また旧ペイント塗装の剝離について熱風による剝離処置を現地で実験した。リグノイド塗りについては帰京後、文献の参照や実験を行ってマグネシアセメントの充填材として鋸屑の含有率を測定するなど古い技術の解明に参考とすることができた。(樋口)

沖縄県那覇市、重文・園比屋武御嶽石門古材の保存修復処置についての調査、指導を行った。屋根材の欠損部の修復は、必要最小限度にとどめることとし、擬石によらず新石材の接着によることとして、現地での実地指導を行った。接着はエロジール(硅微粉末)で増粘したエポキシ樹脂に少量の微石粒を加えたもので行い、ステンレス棒の柄を入れた。ステンレス棒はネジ切りしたものを用いたが、これは接着剤とステンレス柄との界面におけるスベリ現象を防ぐためであり、機械的補強という柄の役割から考えて、本手段は有効な方法であろう。(西浦)

6. 遺跡・遺構の保存処置の研究

史跡、蜆塚貝塚の断面は昭和36年頃に自家製アクリルエマルジョンを含浸強化して露出保存されていたが、近年部分的に崩れるようになったため再処置をすることになり、これを指導した。その方法は断面を新に剥して新鮮な断面とし、水を噴霧して貝層を洗った後、アクリルシリコンオリゴマー(カネカゼムラック)の25%キシレン溶液を約3.2kg/m² 注入して強化した。純貝層部分には更にアクリルエマルジョン(プライマルAC34)を注入し、貝殻同志の接着をした。以上の結果貝塚断面の堆積層位が

調査研究

極めて明瞭にすることができ、また昔の処置に比し、工事期間も著しく短縮することができた。(樋口)

この再処置に先だって同じ断面をエポキシ樹脂(アラルダイト XN1158, XN1059, 硬化剤HY837)を塗布して約8㎡を剥ぎとった。(青木)

埼玉県、稲荷山古墳保存整備協議会に参加し、主に礫部(の)の複製模造に関する調査をした。(樋口)

茨城県勝田市の十五郎穴横穴群の保存のための現地調査を行った。(樋口)

7. 出土遺物保存処置の研究

従来は出土鉄製品の 錆の 安定化処置を行っていなかった。錆た出土鉄製品には0.5M水酸ナトリウム、0.5M亜硫酸ナトリウム水溶液を60℃に温めた中に浸漬して安定化する方法を研究して来たが、サンプルで良い結果が得られたので、松戸市河原塚古墳、茨城県桜井横穴出土鉄製品の保存処置に適用した。(青木)

B. 特別研究

石造文化財一石及び類似材料の保存と修復に関する科学的・技術的研究(8年継続、第8年次、保存科学部と共同研究、28頁参照)

劣化した石の強化保存方法としての樹脂含浸処置については、本年度は特に、石からの水の蒸発形態と塩結晶による破壊挙動についての実験研究を行い、重要な知見を得た。それは、磨崖仏や石造建造物基底部のように、常に背部や下部から水を吸収し表面から蒸発している状況にある石材への薄い表面撥水層を形成させる樹脂処置は、却ってその石の劣化(剝落)を早めることになるということである。又、ドリル圧入速度から石の劣化形態、程度及び樹脂含浸深さ、強化効果を判定する方法を検討し、多くの知見を得た。(西浦)

割損部の接着、欠損部の充填成形等の修復処置に関する基礎実験研究も引続き行っており、又、類似材料(瓦、練瓦等)についても、石に準じた方法で保存強化処置、修復処置に関する実験研究、調査を行い多くの知見を得た。(西浦・樋口)

C. 受託研究

1. 重要文化財長谷寺本堂壁画「廿五菩薩来迎図」剝落止め処置法の研究(奈良)

長谷寺(奈良県桜井市)本堂内来迎壁裏面(約30平方メートル)に描れた来迎図の剝落止め工事を行うに当たり、使用合成樹脂選定のための予備テスト、現地での調査及び局所試験施行などを経て、極く薄い和紙を彩色表面に水貼り乾燥後に、パラロイドB72キシレン溶液を、注射器によって積極的に彩色層下に注入して、剝離している彩色層の再接着をはかった。壁画全体にわたる斜光写真をもとに損傷図、来迎図全容を作図し、損傷の分布の傾向を調査した。(増田・樋口・中里)

2. 龍蔵寺蔵鎗金四天王像扉の保存修理に関する研究

山口県龍蔵寺に伝えられた二枚の鎗金扉は最近発見されて世に出たものであり、まだ十分な評価は得られていない。しかし、裏面に押印される銘文や鎗金技法等により、日本に5・6点遺存する元代の鎗金経箱と相似点が多く、同じく元代の遺品と考えられている。鎗金経箱が主に鳳凰と蓮花文であるのに対し、この扉には、表に四天王像が二体づつ描かれ、裏面には花瓶に挿花図が配され、他に類例のないものである。鎗金経箱と異なり絵画性に富んだこの四天王像は、ラマ教図像で、しかも古例に属する点も貴重である。

この扉は三ツ峠銀杏面の断面を持つ棧で二枚の鏡板を囲んでおり、まず棧から鏡板にかけて布着せがバイヤスに行われ、この上に1ミリほどの漆下地が塗布される。塗漆は表面は黒漆、裏面は朱漆が塗られる。

現状は鏡板が一枚欠失し、縦棧は両扉で一本づつ失い、四隅の柄組みも多くははなれ、残存材も腐朽と虫害等によって、旧状を大きく損っていた。

修理方針としては、現状を出来るだけ残す事とし、破損部を復原して当初の姿に戻そうとする方法はさけた。

既に欠失していた鏡板と二本の縦棧、一本の横棧は新造し、当初材と組合せ可能とするため納骨を彫り出し、鏡板の一部欠失部や、残存する縦棧の欠損部も新材で補ったが、すべて仮留めにするか、欠失部に当てるだけとして、形だけを整えた。鏡板と棧はほとんどはなれていたが、これらも柄組部はただ挿入するだけ、鏡板も棧にはめ込むだけで接着剤は使用していない。新補材にはすべてすり漆による黒色の古色付けを行って当初材と色調を合せた。漆下地の露出する部分にはパラロイドB72の5%溶液を含浸させて剝落をとめ、棧の腐朽部には合成樹脂(ミルボンド)を含浸させるにとどめた。縦棧の折損部も本格的強化は不可能なのでミルボンドを含浸させ、竹ひごに

調査研究

による補強材を挿入する消極的強化だけにした。

鏡板表面は付着物を除去して多小画面を鮮明にただけである。

扉は一枚ずつ展示用も兼ねた衝立形の桐の保存箱におさめた。(中里)

3. 仙台伊達政宗公墓所出土副葬品の保存修復に関する研究

昭和57年度に行った白梅蒔絵手箱の漆膜移植による修復の継続である。

昭和57年度では蓋の漆膜移植を行ったが、今年度は身の漆膜の移植を行った。

蓋の漆膜移植の場合はアクリル樹脂を用いる方法で貼付けを行ったが、この方法は漆膜を汚損しないこと、乾燥が早いこと次の仕事の手順が容易であるなどの長所があったが、大きな短所として水に膨潤するため、割れ目などに樹脂膜が露出していること、漆下地以下の仕上げの仕事がまったく出来ないきらいがあった。

この経験を生かして、身の漆膜貼付けはすべて麦漆を用いた。

身は蓋よりも保存がよく、素地はほとんど残存していたが、乾燥のため漆膜は完全に離れていて、漆膜は簡易にはがれた。採取した漆膜はそのままではカールしてしまうので若干の湿りを加えて、アクリル板に挟んでおいた。

貼付けた漆膜は比較的大きなものが多かったが、貼付けの際の押えが難かしく、多少の凹凸はさけられなかった。

漆膜欠損部には漆下地をつけ、陽取り漆を塗った。(中里)

D. 科学研究費

「彩色文化財の劣化と保存に関する実証的研究」(試験研究(1) 研究代表者 鈴木友也

研究分担者 江本義理、馬淵久夫、見城敏子、新井英夫、石川陸郎、門倉武夫、

三浦定俊、樋口清治、中里寿克、茂木 曙、増田勝彦、柳澤 孝、三宅久雄、

小西暁也)

文化財の中で彩色を施している建築部材、障壁画・美術工芸品等の遺品は数多いが、これら彩色は褪色や剝離など劣化損傷をうけ易い。これらに対し従来の対症療法的な保存処置を見直して、積極的劣化防止策として劣化程度の診断の調査方法や、それに対応する処置法などを3か年計画で研究しようとするものである。

- ① 顔料劣化の基礎的研究として、既知顔料のX線回折チャートの作成を行い、本年度は約30品目について標準チャートを作った。(門倉)

- ② 膠や各種合成樹脂を膠着剤とした彩色試験片を作成し、劣化促進試験を行い、膠は一定量を超えると層状剝離が生じることなど濃度と耐久性の相関関係が実証された。(樋口) 既に合成樹脂による剝落止を施工した障壁画について京都醍醐寺五重塔、同平等院鳳凰堂、同海住山寺五重塔、同南禅寺東照宮、同知恩院経蔵及び仙台大崎八幡神社、瑞巖寺等の追跡調査を実施し、処置の有効性を確認した。
- ③ 本年度は斜光線照明装置を独自に開発製造し、これによって保存処置前の顔料彩色層の剝離状況を適格に記録し、客観的なデータの作成に資するものである。(増田)

6. 情報資料部

(1) 概要

情報資料部は、従来美術部資料室の行ってきた美術に関する研究資料の作成、収集、整理、保管等の業務と、さらに研究所各部の所掌にかかる資料を対象とし、これを充実発展させることを目的とする。当部は文献資料研究室と写真資料研究室の二室をもって構成される。

当部で収集、保管する諸資料並びに情報は、美術部創設以来、内外の研究者の利用に供しており、文化財に関する研究資料センターの役割りを果している。また、地方自治体指定の文化財目録及び、文化財に関連する図書、出版物等に関する情報の収集と調査研究を行い、さらに、これと平行して、海外の文化財に関する情報の収集とその調査研究を行うほか、昭和59年度から美術部と共同して、特別研究「壁画・障壁画の実証的研究」(代表者 柳澤 孝)及び、科学研究費補助金による一般研究(A)「日本美術における中世より近世への様式展開についての実証的研究」(代表者 関口正之)に参加し、これらの成果を『美術研究』ほか学会誌に発表している。また、情報資料部の業務の一つとして、日本・東洋古美術文献情報の収集を行い、それを整理した文献目録の編集を行うほか、59年度から情報化時代に対応して、美術資料に関する情報処理システムの開発に関する基礎的研究に着手した。

当部で保管する図書及び写真資料は週3日、外部研究者の閲覧に供している。研究

調査研究

員の研究成果の一部は美術部と共催の公開学術講座と夏期学術講座で発表している。

文献資料研究室

各種研究資料の収集、整理、保管、閲覧等の業務を行うとともに、毎年、日本・東洋古美術に関する雑誌論文を分類集録した文献目録を編纂して日本美術年鑑に掲載している。定期刊行物所載古美術関係文献については前回の昭和11～40年の目録に引続き、昭和41年以後の目録作成準備を続行中である。

これらの業務のほか、当室研究員は、日本・東洋古美術各分野で、専門的調査研究を進めてその成果を公表しているが、今年度は別掲の科学研究費補助金による研究を担当・分担した。

写真資料研究室

研究用写真資料の作成、収集、整理、保管、閲覧を行うとともに、各研究者の調査研究活動に協力して研究資料を撮影し、資料の充実につとめた。また、これに平行して、美術研究所当時撮影したガラス製写真原板の転写を昨年度に引続き実施した。

こうした作業のほか、当室研究員は、古美術研究の分野で専門的調査研究を進め、その成果を公表し、別掲の科学研究費補助金による研究及び特別研究に参加した。

(2) 研究調査活動

A. 一般研究

1. 情報資料の収集と調査に関する研究

概要にのべた通りである。

2. 日本古代中世美術の研究

(1) 絵巻物の研究

科学研究費(一般研究(A))に関連して、絵巻に見る画中画を調査し、そのデータ・シートの作成に着手した。(全員) また、作品研究では、中世に制作された八幡縁起を網羅的に調査するとともに、その写真資料を収集した。(宮) 次に高僧伝絵研究の一貫として、本年もひきつづき法然上人伝絵の調査研究を行い、無量寿寺本及び常福寺本

の拾遺古徳伝絵を中心に研究を進めた。(米倉)

(2) 中世水墨画の研究

東京在住の個人コレクションを調査し、特に式部輝忠筆扇面貼交屏風について調査並びに資料収集を行った。(鈴木・島尾) また、山口県古熊神社蔵天神図を中心として、渡宋天神像関連資料の調査を行った。(島尾)

(3) 古代中世彫刻の研究

尊別の研究として西国の清涼寺式釈迦像の調査、並びに神将像の研究を行い、前者は『美術研究』313号に、後者は所内総合研究会で発表した。(猪川) また、東京国立博物館の法隆寺四十八体仏の調査研究班に参加した。(猪川)

3. 近世絵画史の研究

岩佐又兵衛研究の一部として、福井における又兵衛作品の調査を、福井県立美術館と協力して行った。(鈴木) また、円山応挙画稿類の調査を行い、写真資料の収集につとめた。(鈴木・佐藤) 次に、近世禅画研究、特に白隠慧鶴、東嶺円慈の作品研究に向けての予備研究と調査を行った。(鈴木・島尾)

4. 中国画研究

来舶画人の作品並びに資料の収集と研究を継続するとともに、現代中国絵画の動向に関する調査研究を行った。(鶴田)

5. 研究資料電算化への調査研究

研究資料の電算化に関し、美術部と共同で研究用として利用できるシステム像の研究を行い、また、60年度利用をめざして写真資料整理のOA化の実験を行った。(米倉・鈴木・島尾・三宅) また、京都大学人文科学研究所で行われた「漢籍担当職員講習会(漢籍電算処理)」に参加し、文献目録等美術史学に関する情報処理について多くの知見を得た。(島尾)

7. 主要研究業績

①：著書・編書 ②：論文 ③：解説 ④：研究発表 ⑤：講演・放送 ⑥：その他
昭和59.4～昭和60.3

伊藤 延男(所 長)

① 韓国七〇〇〇年美術大系 国宝巻6 塔婆, 巻9 寺院建築(日本語監修)

調 査 研 究

- 竹書房 59.10
- ② 真言宗の建築 弘法大師空海 毎日新聞社 59.10
- ② 継手仕口の痕跡から古建築の歴史を探る INA BOOKLET 4-3 伊奈製陶 59.11
- ② 文化財保存のための国際協力 文化庁月報 ぎょうせい 60. 2
- ③ 第7回イコモス総会報告 建築史学3 59. 9
- ③ イコモス総会に出席して 博物館研究 59. 9
- ③ 韓国の塔婆に思う 国宝巻6 塔婆 竹書房 59.10
- ③ 韓国の寺院建築について 国宝巻9 寺院建築 竹書房 59.10
- ⑤ Wooden Buildings in Japan; Japanese Sculpture, Made of Wood
Course on Wood Conservation Technology(Trondheim, Norway) 59. 7
- ⑤ 博物館資料の保存科学 博物館職員新任者夏期研修講座 59. 8
- ⑤ 人文科学と自然科学, 海外博物館における保存の動向
昭和59年度博物館・美術館保存担当学芸員研修 59.12
- ⑥ 大工技術の粋=継手仕口を考える(座談会)
INA BOOKLET 4-3, 伊奈製陶 59.11
- ⑥ 収蔵庫に求められる条件(1,2)(見城と対談) 博物館研究19-10, 11 59.12, 60. 1

美 術 部

柳澤 孝(美術部長)

- ② 赤外線テレビカメラによる堂塔荘殿画の調査研究 一主として法界寺阿弥陀堂の
四天柱絵について一(保存科学部三浦と分担執筆)
古文化財に関する保存科学と人文・自然科学 一総括報告書一 59. 3
- ② The Paintings of the Four Deva Kings in the Collection of the Museum
of Fine Arts, Boston: Recently Rediscovered Paintings from the Singon-dō
of the Abandoned Temple Eikyū-ji
ARCHIVES OF ASIAN ART XXXVII 59.
- ④ Examining Japanese Wall-Paintings (from the 7th through 14th centuries)
Using Physico-optical Methods (日本古代・中世壁画の光学的方法による調
査) 第8回国際研究集会 59.11

主要研究業績

- ④ 真言八祖行状図の現状模写と復原模写 文化財保存修復研究協議会 60. 2
田村 悦子（主任研究官）
- ② 梅堂浅野長祚自筆稿本「墨華塾書画銘心録・同本朝書画銘心録」公刊
美術研究330 59. 12
- ② 梅堂浅野長祚自筆稿本「墨華塾書画銘心録・同本朝書画銘心録」の研究
美術研究331 60. 3
- ② 三点か、四点か、一親鸞上人の書蹟の編年一 日本記号学会誌5 60. 3
- ⑤ 仏教書道 一特に日本中世一 美術部・情報資料部公開学術講座 59. 12
田實 榮子（主任研究官）
- ③ 舞楽装束とその遺品 雅楽界58号 小野雅楽堂 59. 5
- ③ 重文綸子地梅樹模様振袖 東京護国寺蔵 全集日本の古寺2 集英社 59. 12
- ④ 染織品の保存と陳列 一三か月間開催されたアイヌ服飾展に関連して一
北海道開拓記念館研究会 59. 12
- ④ 日光山輪王寺蔵胴着三領とその復元模造二領について
美術部・情報資料部研究会 60. 1
- ⑤ 小袖考 専修学校教育振興会主催講演会 59. 11
関口 正之（第一研究室長）
- ③ 泉涌寺蔵韋駄天画像 美術研究330 59. 12
- ④ 鎌倉時代の仏画 美術部・情報資料部夏期学術講座 59. 7
- ④ 泉涌寺の仏画 美術部・情報資料部研究会 59. 10
- ⑤ 密教と美術 北区教育委員会 59. 9
- ⑤ 絵画の保護と管理 千葉県教育委員会 59. 10
三宅 久雄（主任研究官）
- ③ 国宝 彫刻Ⅰ・Ⅱ 毎日新聞社 59. 12
- ③ 京都の美術工芸 京都府文化財保護基金 60. 3
三輪 英夫（第二研究室長）
- ① 方眼美術論（編集・解説） 中央公論美術出版 59. 6
- ② 黒田清輝筆「智・感・情」をめぐる 美術研究328 59. 6
- ③ 画家紹介・作品解説（石川滋彦他24名） 現代の水彩画 3 第一法規 59. 9

調査研究

- ③ 事項解説(『西画指南』他17項目) 洋学史事典 雄松堂出版 59. 9
- ③ 画家略歴(岸田劉生他21名) 近代日本洋画素描大系・2 講談社 59.10
- ③ 画家略歴(佐伯祐三他24名) 同上・3 59.11
- ③ 画家略歴(熊谷守一他28名) 同上・4 60. 1
- ③ 画家略歴(山口長男他28名) 同上・5 60. 3
- ④ 黒田清輝の画業 ―「智・感・情」を中心に―
東京国立文化財研究所総合研究会 59.11
- ⑤ 日本近代洋画の成熟 姫路市立美術館 60. 3
- ⑤ 日本の印象派 ブリヂストン美術館土曜講座 60. 3
- ⑥ 団体展評(光風会展, モダンアート展他) 共同通信 60. 4
- 佐藤 道信(第二研究室)
- ② 狩野芳崖晩期の山水画と西洋絵画 美術研究329 59. 9
- ③ 川端玉章, 木村武山作品解説
米国心遠館コレクション近世日本絵画集成 59.10
- ③ 近現代作家略歴 笠間日動美術館所蔵品目録 60. 3
- ④ 狩野芳崖の山水画について 美術部・情報資料部研究会 59. 7
- 榊田絵美子(第二研究室)
- ③ 近現代作家略歴 笠間日動美術館所蔵品目録 60. 3
- ④ 「美術新報」による西欧絵画の受け入れについて 明治美術研究学会 59.12

芸能部

三隅 治雄(芸能部長)

- ② 日本の中の沖縄の芸能 「文学」52—6 59. 6
- ② 民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究 ―その1―
『芸能の科学』15 60. 3
- ③ 採集の達人 『池田彌三郎人と学問』 桜楓社 59. 7
- ③ 「韓国民俗芸能祭84東京」をみて 統一日報文化欄 59. 9
- ③ アジア民謡の旅 Discovery 12—10 59.10
- ③ 韓国の民衆芸能と日本 朝日新聞学芸欄 59.10

主要研究業績

- ③ 神遊行信仰と漂泊集団 『旅芸人の世界』 国際交流基金 59. 11
- ④ シンポジウム「韓国 の 仮面劇」(金両基・遠藤琢郎などと) 西武200 59. 7
- ④ セミナー アジア伝統芸能の交流84 「旅芸人の世界」 国際交流基金 59. 11
- ⑤ わが師わが学 一折口信夫一 NHKラジオ 59. 6
- ⑤ 子供と民俗芸能 埼玉民俗文化センター 59. 8
- ⑤ 民俗芸能研究の現状と展望 民俗芸能学会設立総会記念講演 59. 11
- ⑤ 民謡の分布 芸能部公開学術講座 59. 12
- ⑤ 沖縄の祭りと芸能 朝日芸能サロン 59. 12
- ⑤ 民俗芸能とその保存 立川市社会教育会館 59. 12
- ⑤ こどもと祭り NHKテレビ 60. 1
- ⑤ もちつき正月(地域と伝統芸能) NHKテレビ 60. 1

中村 茂子(主任研究官)

- ② さいとりさし(鳥刺芸)の系譜 「藝能史研究」No.87 59. 10
- ② 民俗芸能伝播・伝承の一形態 一冬木沢の空也念仏踊を中心に一
「芸能の科学」15 60. 3
- ③ ささら二種・その芸能 能と狂言12 59. 5
- ⑤ 民謡の伝承 一今日と明日一 芸能部公開学術講座 59. 12

佐藤 道子(演劇研究室長)

- ① 声明大系 四 浄土(共同編集) 法蔵館 59. 5
- ① 声明大系 六 禅(共同編集) 法蔵館 59. 7
- ① 声明大系 七 法華(共同編集) 法蔵館 59. 10
- ① 声明大系 一 南都(共同編集) 法蔵館 59. 11
- ① 東大寺お水取り(共同編集) 小学館 60. 2
- ② 小観音のまつり 「南都仏教」52 59. 6
- ② 二月堂修二会の声明 『東大寺お水取り』 小学館 60. 2
- ③ 知恩院“御忌会”と西本願寺“報恩講”
『全集日本の古寺8 京の浄土教寺院』 集英社 59. 9
- ③ 南都の声明 『声明大系一 南都』 法蔵館 59. 11
- ③ 法要の形式と内容 『声明辞典』 法蔵館 59. 11

調査研究

③ 延暦寺の法華大会

『全集日本の古寺6 延暦寺・園城寺・西教寺』 集英社 60. 1

④ 悔過会とその周辺

芸能部夏期学術講座 59. 7

⑤ 東大寺修二会について

オックスフォード大学 60. 1

⑥ いま、思うこと

東洋音楽研究49 59. 9

⑥ 東大寺修二会行事次第

『東大寺お水取り』 小学館 60. 2

⑥ 長老聞き書き

『東大寺お水取り』 小学館 60. 2

松本 雍(演劇研究室)

③ 能楽講座「装束」「出立」「演目」「流派」「奏演形式」「小段」

『国立能楽堂』 59. 4~60. 3

③ 「翁」ほか

『邦楽百科辞典』 59. 11

③ 「アシライ」ほか

『大百科事典』 平凡社 60. 3

⑤ 能楽あんない「謡の魅力」「狂言の謡」「狂言の所作」

国立能楽堂 59. 4~59. 6

蒲生 郷昭(音楽舞踊研究室長)

① 声明大系 四 浄土(共同編集)

法蔵館 59. 5

① 声明大系 六 禅(共同編集)

法蔵館 59. 7

① 声明大系 七 法華(共同編集)

法蔵館 59. 10

① 声明大系 一 南都(共同編集)

法蔵館 59. 11

② 長唄正本研究㉔~㉕(共同研究)

「邦楽と舞踊」406~417 59. 4~60. 3

② 「唄(うた)」字について

金田一春彦博士古稀記念論文集 第三巻 文学芸能編 三省堂 59. 7

③ 邦楽用語辞典 理論用語編(10~13)

「季刊邦楽」39~42 59. 6~60. 3

③ 能楽用語のことなど

「能楽鑑賞の栞」No.47 能楽鑑賞の会 59. 9

③ 声明の楽譜と実唱

『声明辞典』(声明大系特別付録) 宝蔵館 59. 11

③ 日本音楽関係項目

『大百科事典』1~5 平凡社 59. 11

③ 日本音楽関係項目

『国史大辞典』5 吉川弘文館 60. 2

⑤ 真言声明の歴史・真言声明の理論・周辺音楽との関係

「平安の仏教音楽

—日本の仏教音楽の源流を訪ねて—

朝日カルチャーセンター 59. 7~9

⑥ 平出久雄先生年譜・業績目録

「東洋音楽研究」49 59. 9

主要研究業績

- ⑥ 横道萬里雄著『能劇逍遙』(共同編集) 筑摩書房 59. 9
山田智恵子(音楽舞蹈研究室)
- ② 義太夫節におけるマクラの音楽語法 『芸能の科学』15 60. 3
- ③ 義太夫節関係項目 『邦楽百科辞典』 音楽之友社 59. 11
- ⑥ 竹本津太夫芸話(採譜)第15回～17回 『季刊邦楽』39～41 59. 6～59. 12
羽田 紘(民俗芸能研究室長)
- ② 狂言の動作单元(一) 一大藏流小舞について(松本と共著) 「芸能の科学」15 60. 3
- ③ 能楽関係項目 『大百科事典』 平凡社 60. 3
- ③ 能楽関係項目 『邦楽百科辞典』 59. 11
- ④ 能の流派と伝承 東京国立文化財研究所総合研究会 59. 7
- ⑤ 座談会：能の復曲活動 NHK第二放送 60. 2
- ⑥ 1983年の能楽界 『演劇年報1984年版』 59. 5
- ⑥ 書評：田中伝左衛門著『囃子とともに』 「赤旗」 59. 11
- ⑥ 書評：高橋義孝著『能のすがた』 「日本経済新聞」 59. 12
- ⑥ 復曲の意味と意義 「能楽タイムズ」 60. 1
仲井幸二郎(民俗芸能研究室)
- ③ 口訳民謡集(連載) 「みんよう文化」 59. 4～60. 3
花笠音頭・相馬二遍返し・秋田甚句・木更津甚句・会津磐梯山・南部牛追唄
尾鷲節・山中節・木曾節・さんさ時雨・俵積み唄・岳の新郎さん
- ③ 山陰民謡の今と昔 『四季日本の旅』12 集英社 59. 5
- ③ 山の民の暮らしと歌 『山の歳時記』8 小学館 59. 9
- ③ 民謡関係項目 『大百科事典』 平凡社 59. 11
- ③ 風の神送りと盆踊り 「魚津国文」9 59. 12
- ③ 「越中おわら」あれこれ 「魚津国文」10 60. 3
- ⑤ 民謡の遠い旅 全国民謡民舞講習会(福岡) 59. 4
- ⑤ 年中行事と民謡(4回) 財団法人日本民謡協会講習会 59. 6～59. 8
- ⑤ 踊りと舞い ビクター民謡研究会(高松) 59. 9
- ⑤ 正月はなぜめでたいか 魚津海市セミナー 59. 10

調査研究

- ⑤ 年中行事と民謡 常陽芸文センター講座(水戸) 59. 11
- ⑤ 日本の盆・日本人の盆 魚津海市セミナー 59. 11
- ⑤ 加賀の唄・越中の踊 全国民謡民舞講習会(北上) 59. 11
- ⑤ 童唄への疑問 魚津海市セミナー 59. 12
- ⑥ 民謡讃歌・たたら業唄 日本民謡協会民謡民舞春季大会 59. 5
- ⑥ お山の大将おれひとり 『池田弥三郎人と学問』 59. 7

保存科学部

江本 義理(保存科学部長)

- ② 土器に附着した赤色顔料の材質分析 多摩ニュータウン遺跡(57-2)
東京都埋蔵文化財センター調査報告4 59. 3
- ② 橋本遺跡採集石器に附着した赤色物質の成分分析
橋本遺跡— 先土器時代編 相模原市橋本遺跡調査会 59. 8
- ② 橋本遺跡出土礫群構成礫の付着物質分析と被熱の検証 同 上 59. 8
- ② Coloring Materials Used on Japanese Paintings of the Protohistoric
Period and Related Topics. (山崎と共著)
第7回国際研究集会プロシーディングス 59. 11
- ③ 文化財と保存環境—総論 「建築知識」26—6 59. 6
- ③ 壁画(遺跡・遺構保存の実例) 『考古学調査研究ボックス』2 雄山閣 59. 12
- ③ 総論・石造文化財の保存 「石造文化財の保存・修復」 60. 3
- ③ 石の塩類風化について 同 上 60. 3
- ③ 石造プレパレート標本と岩石資料カード 同 上 60. 3
- ④ Coloring Materials used on Japanese Mural Paintings within Building
第8回国際研究集会 壁画—II 59. 11
- ⑤ 歴史資料の保存科学 近世史料取扱講習会(国立史料館) 59. 9
- ⑤ 保存科学総説
昭和59年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(保存科学課程) 59. 9
- ⑤ 文化財の材質と劣化
第6回文化財保存担当学芸員研修会(財・文化財虫害研究所) 59. 9

主要研究業績

- ⑤ 文化財の保存と活用 昭和59年度文化財取扱い講習会(岩手博物館) 60. 1
- ⑤ 保存科学論, 環境概論, 材質劣化概論
昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12
- ⑤ 鑑定—科学的鑑定 『大百科事典』3 平凡社 59. 11

門倉 武夫(主任研究官)

- ② Exhibition of the Wall-Paintings of the Tumulus Torazuka
第7回国際研究集会プロシーディングス 59. 11
- ② イラン出土壺の脱塩処理における溶出物の分析 「保存科学」24 60. 3
- ③ 文化財とはこりについて考える 「建築知識」26—6 59. 6
- ⑤ 展示環境調査 I —空調機とフィルター—
昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12

石川 陸郎(主任研究官)

- ③ 博物館における照明の考え方 「建築知識」26—6 59. 6
- ④ 油彩画に対する紫外線の利用 保存科学部研究会 59. 7
- ⑤ 文化財の照明 昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12

三浦 定俊(主任研究官)

- ② 赤外線テレビカメラによる堂塔荘殿画の調査研究(柳澤と共著)
特定研究「古文化財」総括報告書 59. 9
- ② 小金銅仏ガンマ線透視撮影法の改良(大崎・神庭・呉屋と共著)
「古文化財の科学」29 59. 12
- ② Temperature and Humidity in the Tumulus Takamatsuzuka(斉藤と共著)
第7回国際研究集会プロシーディングス 59. 11
- ② 紙の劣化速度に関する検討(尾関・大江と共著) 「紙・技協誌」39—2 60. 2
- ② 合成樹脂による岩石の凍結破壊防止(福田・西浦と共著)
「石造文化財の保存と修復」60. 3
- ② 凍結—融解サイクル出現頻度の全国分布(福田と共著) 同上
- ③ 熱・温湿度を考える 「建築知識」26—61 59. 6
- ③ 概説—石造文化財の凍結—融解繰り返しによる劣化とその防止法について
「石造文化財の保存と修復」60. 3

調査研究

- ③ 石造文化財修理資料検索ファイル(小室と共著) 同上
- ④ Treatment of Stone with Synthetic Resins for its Protection against
Damage by Freeze-Thaw Cycles(西浦・福田と共著) IIC大会(バリ) 59. 9
- ④ Non-Destructive Method for Measuring the Refractive Index of an
Ancient Glass Bead 第7回ICOM保存委員会大会(コペンハーゲン) 59. 9
- ④ Design of the Portable Apparatus of an Infrared Television Camera 同上
- ④ 考古遺物へのレフレクトグラフィーの応用 保存科学研究集会(奈文研) 60. 3
- ⑤ 温湿度測定と機器, 文化財の計測論, 放射線の利用—軟X線を中心に, 画像処理技術の利用とその展望
昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12
- ⑥ IIC 大会と ICOM 保存委員会大会出席報告 「日本文化財科学会会報」6 59. 12
- ⑥ IIC 大会と ICOM 保存委員会大会に参加して(西浦と共著)
「保存科学」24 60. 3
- ⑥ 石の保存処置に関する研究状況(ジャトン, オリアル共著, 抄訳)
「石造文化財の保存と修復」60. 3

馬淵 久夫(化学研究室長)

- ② 大源太遺跡出土変形四獣鏡の鉛同位体比(平尾と共著)
「藤沢市片瀬大源太遺跡の発掘調査」59. 3
- ② 愛知県朝日遺跡出土銅滴の放射化分析と鉛同位体比測定(平尾と共著)
「考古学の広場」2 59. 8
- ② 前漢銭および模倣銭の化学組成(平尾・泉谷・八木・木村と共著)
「古文化財の科学」29 59. 12
- ② ストロンチウム同位体比の土器・瓦の産地推定への応用(川上と共著)
「古文化財の科学」29 59. 12
- ③ 飛鳥・奈良時代の銅の産地はどこか 「化学」39—10 59. 10
- ③ 考古学と実験 「考古学ジャーナル」240 59. 12
- ③ 青銅器原料の産地推定 「固体物理」20—2 60. 2
- ④ 鉛同位体比による考古学的遺物の産地推定 日本化学会第49春季年会 59. 3
- ④ Provenance Study of the Dotaku by Lead Isotope Technique(平尾・

- 西田と共同研究) 1984 Archaeometry Symposium, Washington, D.C. 59. 5
- ④ 東アジア方鉛鉱の鉛同位体比(平尾と共同研究)
昭和60年度日本文化財科学会大会 60. 3
- ⑤ 分析化学概論 昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59.12
- 見城 敏子(物理研究室長)
- ② Some Conservation on the Environmental Conditions Suitable for the
Conservation of Cultural Properties, the Restored Object as a Source
of Historical and Technological Information
「Hungary with the support UNESCO」 60. 1
- ② The use of Nikka Pellets and Japanese Tissue Made Plain The
International Journal of Museum Management and Curatorship 4-1 60. 3
- ② 変退色に対する光モニター 「保存科学」24 60. 3
- ③ 酸・アルカリとその対策 「建築知識」26-6 58. 6
- ③ いにしへの知恵を現代に生かす 「JP REPORT 45」 58. 9
- ③ 初漆・盛漆について 「漆文化」日本文化財漆協会41 60. 2
- ④ Environmental Survey of Historical Wooden Buildings in the Hall of
Nijojo-Shoin 第8回国際研究集会 59.11
- ⑤ 文化財の有機化学 一漆・膠一, 展示環境調査 一汚染因子一
昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59.12
- ⑥ 収蔵庫に求められる条件(1)(伊藤と共著) 「博物館研究」19-10 59.12
- ⑥ 収蔵庫に求められる条件(2)(伊藤と共著) 「博物館研究」19-11 60. 1
- 新井 英夫(生物研究室長)
- ② Microbiological Studies on the Conservation of Mural Paintings in
Tumuli, 第7回国際研究集会プロシーディングス 59.11
- ② コンクリート壁体のガス透過性(その2)ーシボレックスの燻蒸剤に対する挙動ー
(森と共著) 「保存科学」24 60. 3
- ② 石造文化財の生物劣化とその対策「石造文化財の保存と修復」 60. 3
- ③ 燻蒸施設等設計の留意点 「建築知識」26-6 59. 6
- ③ 紙のカビを覗く(特集:「紙」の保存を考える) 「JP REPORT」45 59.11

調査研究

- ④ 文化財保存科学における生物学 日本化学会第49回春季年会 59. 4
- ④ 文化財の虫菌害防除について
第28回応用動物昆虫学会, 貯穀害虫懇話会 59. 4
- ④ 紙の褐色斑(foxing)の保存科学的研究
第6回古文化財科学研究会講演会大会 59. 5
- ④ Biological Problems of Cultural Properties, Conservation Seminar of
the J. Paul Getty Conservation Institute, Los Angeles, U.S.A. 59. 7
- ④ Antimicrobial Factors Found in Tumuli, the 6th International Biode-
terioration Symposium, the George Washington University, Wash-
ington D.C., U.S.A. 59. 8
- ④ 紙の褐色斑の有機酸について
第4回細管式等速電気泳動分析シンポジウム 59. 12
- ⑤ 紙類の微生物による被害(第6回書籍・古文書等のむし・かび害保存対策研
修会) 朝文化財虫害研究所 59. 6
- ⑤ Biodeterioration of Cultural Properties and Its Control,
a) Canadian Conservation Institute, Ottawa. 59. 8
b) The Museum of Modern Art, New York. 59. 8
- ⑤ 文化財保存科学における生物学的研究 東文研保存科学セミナー 59. 9
- ⑤ 米国等における文化財保存科学の動向
東京国立文化財研究所総合研究会 59. 9
- ⑤ 文化財の微生物による被害とその防除(第6回文化財虫害保存研修会)
朝文化財虫害研究所 59. 9
- ⑤ 文化財の生物劣化とその防除 芭蕉記念館 59. 10
- ⑤ 文化財の生物劣化 一虫微害一
昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12
- ⑤ 文化財の生物劣化と防除対策 東工大・文化財研究会 60. 2
- ⑤ 文化財虫害防除作業主任者の研修と能力認定の講習会
朝文化財虫害研究所 60. 2

森 八郎(生物研究室)

主要研究業績

- ② 硼素剤による防虫処理(Ⅲ)—硼素剤混入セルロース素材のゴキブリに対する効力試験(予報) 「文化財の虫菌害」8 59. 8
- ② コンクリート壁体のガス透過性(その2)—シボレックスに対する燻蒸剤の挙動(新井と共著) 「保存科学」24 60. 3
- ③ 文化財と昆虫(7) 「環境衛生」31—4 59. 4
- ③ 古文化財の虫害と保存 「大法輪」51—5 59. 5
- ③ 文化財と昆虫(8) 「環境衛生」31—7 59. 7
- ③ 文化財と昆虫(9) 「環境衛生」31—9 59. 10
- ③ 本を喰う虫たち(特集:「紙」と保存を考える) 「JP REPORT」45 59. 11
- ③ 本の虫・カビとその対策(特集:本と紙) 「大学時報」33—179 59. 11
- ③ 文化財と昆虫(10) 「環境衛生」32—1 60. 1
- ④ 硼素剤による防殺虫処理(第2報) —シロアリに対する効果—
第37回日本衛生動物学会大会 60. 3
- ⑤ 書籍・古文書等を加害する昆虫とその被害対策(第6回書籍・古文書等のむし・かび害保存対策研修会) 朝文化財虫害研究所 59. 6
- ⑤ 文化財の虫害と防除(第6回文化財虫菌害保存研修会)
朝文化財虫害研究所 59. 9
- ⑤ 文化財の燻蒸処理(第4回文化財の燻蒸処理実務講習会)
朝文化財虫害研究所 59. 12
- ⑤ 文化財虫菌害防除作業主任者の研修と能力認定の講習会
朝文化財虫害研究所 60. 2
- ⑥ 衛生動物学会の発展を願みて 「環境衛生」31—9 59. 10

修復技術部

鈴木 友也(修復技術部長)

- ① 東北の工芸(共編) 「日本の伝統工芸Ⅰ 北海道・東北」60. 3
- ① 曲げ物と日本人(共編) 「日本の伝統工芸Ⅰ 北海道・東北」60. 3
- ① 大山祇神社 60. 3
- ⑤ 資料の修理(歴史資料) 歴史民俗資料館等専門職員研修会 文化庁 59. 11

調査研究

- ⑤ 文化財の調査表作成 工芸品 指定文化財展示取扱講習会 文化庁 59. 7
- ⑤ 日本の金工 夏期講座 金沢文庫 59. 8
- ⑤ 保存修復概論 昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12
- 中里 寿克（第一修復技術研究室長）
- ② 古代漆下地の研究 「保存科学」25号 60. 3
- ② 伝統の会津塗 「日本の伝統工芸」1 北海道・東北 60. 3
- ⑤ 鎌倉時代の蒔絵と技法 美術部・情報資料部夏期学術講座 59. 7
- ⑤ 縄文時代の製作技法 東京国立文化財研究所総合研究会 60. 1
- 西浦 忠輝（第一修復技術研究室）
- ③ 合成樹脂による岩石の凍結破壊防止（三浦・福田と共著）
「石造文化財の保存と修復」 60. 3
- ② 石の樹脂処理と塩類風化—シラン処理石材からの水の蒸発と塩結晶による
破壊挙動；石造文化財の保存，修復処置に関する研究〔Ⅱ〕 同上 60. 3
- ② 樹脂含浸石材の圧裂引張り強度試験；石造文化財の保存，修復処置に
関する研究〔Ⅲ〕 同上 60. 3
- ② 石材への樹脂含浸効果と石の含水率との関係；石造文化財の保存，修復
処置に関する研究〔Ⅳ〕 同上 60. 3
- ② シランと有機樹脂の混合による石粒の固定実験；石造文化財の保存，修復
処置に関する研究〔Ⅴ〕 同上 60. 3
- ② 再使用を目的とした古瓦の樹脂含浸処理 同上 60. 3
- ② 重文・園比屋武御嶽石門屋根材の保存，修復処置 同上 60. 3
- ② 生駒親正墓の修復（青木・樋口・田辺と共著） 同上 60. 3
- ② 重文・定光寺観音堂古瓦の保存・修復処置 同上 60. 3
- ② 文化財の保存を目的とした歴史的住宅建築の構造的補強法（新修理技法）の
開発に関する研究—特にぬき接合部について（伊藤・安藤と共著）
「住宅建築研究所報」No. 11 60. 3
- ③ ベルギー報告 一言語問題と王立文化財研究所—
「学術月報」第37巻第12号 59. 12
- ③ IIC大会とICOM保存委員会大会に参加して（三浦と共著）

主要研究業績

- 「保存科学」24 60. 3
- ③ 石材プレバート標本と岩石資料カード(江本・加藤と共著)
「石造文化財の保存と修復」 60. 3
- ③ 海外文献抄訳(三浦・馬淵と共著) 同上 60. 3
- ③ ベルギー便りー王立文化財研究所と言語問題
「日本文化財科学会会報」第7号 60. 3
- ④ Treatment of Stone with Synthetic Resins for Its Protection against
Damage by Freeze-thaw Cycles(福田・三浦と共同)
Tenth IIC Congress in Paris 59. 9
- ④ Experimental Study on the Adhesion Strength of Lacquer Coating
7th Triennial Meeting of Committee for Conservation of ICOM in
Copenhagen 59. 9
- ⑥ 石材表面強化方法について 「重要文化財幸橋保存修理工事報告書」 59. 9
茂木 曙(第一修復技術研究室)
- ⑤ 「文化財の科学的保存と修復」(木造建造物の保存を主に)
朝岡忘会青少年研習道場 59. 8
- ⑤ 「文化財の科学的保存と修復」(木造建造物の彩色保存処置を主に)
長岡厚生会館 59. 8
- 増田 勝彦(第二修復技術研究室長)
- ② 製紙に関する古代技術の研究(Ⅲ) 一苧麻布・楮の臼搗による叩解一(大川
と共著) 「保存科学」24 60. 3
- ② 重要文化財長谷寺本堂壁画『廿五菩薩来迎図』剥落止め処置法の研究(樋口
と共著) 「保存科学」24 60. 3
- ② Documenting the Damages of Mural Paintings
第8回文化財保存修復に関する国際シンポジウム 59. 11
- ③ Vegetable Adhesives Used in the Workshop of the Hyōgushi, Restorer
and Mounter of Japanese Paintings IIC 10th International Congress
(Paris) 59. 9
- ⑤ 表具の科学 昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12

調査研究

- ⑥ 壁画におけるクリーニング(翻訳) 「保存科学」24 60. 3
樋口 清治(第三修復技術研究室長)
- ② 彩色木彫像の保存修復処置について(受託研究報告第54号) 「保存科学」24 60. 3
- ② 彩色木彫像の保存修復に用いた彩色顔料と合成樹脂による色変化(今津節生
と共著) 「保存科学」24 60. 3
- ② 重要文化財長谷寺本堂壁画「廿五菩薩来迎図」剝落どめ処理法の研究(増田勝彦
と共著) 「保存科学」24 60. 3
- ② 石造文化財の保存処置における合成樹脂の応用とその問題点
石造文化財の保存と修復 60. 3
- ② 史跡・伝徳一廟石塔の保存修理(伊藤と共著) 石造文化財の保存と修復 60. 3
- ② 生駒親正墓の修復(青木・西浦・田辺と共著) 石造文化財の保存と修復 60. 3
- ⑤ 出土遺物保存材料 埋蔵文化財発掘技術者研修会 59. 10
- ⑤ 文化財の修復と合成樹脂
昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12
青木 繁夫(第三修復技術研究室)
- ② 土製品の保存・修復Ⅰ—塩類風化によって損傷をうけた土器の保存・修復
「保存科学」24 60. 3
- ② 出土銅造仏像の保存修復研究 「保存科学」24 60. 3
- ② 鉄造茶釜(永正二年在銘)の保存修復に関する研究 「保存科学」24 60. 3
- ② 生駒親正墓の修復(田辺・樋口・西浦と共著)
「石造文化財の保存と修復」 60. 3
- ③ 英国における保存科学の現状 「文化庁月報」198 60. 3
- ⑤ イギリスの保存科学教育 古文化財科学研究会 60. 3
- ⑤ 金属製品の保存修復 昭和59年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修 59. 12

情報資料部

宮 次男(情報資料部長)

- ② 浄土教の絵画 全集日本の古寺8 京の浄土教寺院 集英社 59. 8

主要研究業績

- ③ 地獄の諸相 同 上
- ④ 日本古代中世絵画における景観表現 美術史学会第37回全国大会 59. 5
- ④ The Development of Paintings of the Lotus Sutra in Japan
International Conference on the Lotus Sutra in Japanese Culture,
University of Hawaii 59. 12
- ⑤ 命蓮聖と信貴山縁起 ロイヤルホテル文化講座 59. 5
- ⑤ 源氏物語絵巻をめぐる 横浜朝日カルチャーセンター 59. 8
- ⑤ 鎌倉時代の仏教美術<仏教説話図・社寺縁起と高僧伝絵・祖師像と頂相>
朝日カルチャーセンター 60. 3

米倉 迪夫(主任研究官)

- ③ 隨身庭騎絵巻等 日本古典文学大辞典 第3, 4, 5巻 岩波書店 59. 4, 7, 10
- ⑤ 鎌倉時代の肖像画 美術部・情報資料部夏期学術講座 59. 7
- ⑥ 朝鮮美術の特質(Dietrich Seckel著 翻訳) 芸術学研究双書(芸術と民族)所収
玉川大学出版部 59. 4

猪川 和子(文献資料研究室長)

- ① 蔵王権現像と金剛童子像 御嶽信仰(共著) 雄山閣 60. 2
- ② 毘沙門天像考『中尊寺と東北の古寺』 全集日本の古寺 59. 7
- ② 愛媛の清涼寺式釈迦如来像 美術研究313 59. 12
- ④ 神将像の系譜 東京国立文化財研究所総合研究会 60. 3

島尾 新(文献資料研究室)

- ④ 禅宗芸術の特質 仏教青年会 59. 4

鶴田 武良(写真資料研究室長)

- ① 月影館審定近代中国絵画 日貿出版社 59. 10
- ② 任伯年と黄賓虹—近代絵画への転回点— 松濤美術館“中国絵画展”目録 59. 4
- ② 中国画家訪問記2—黄苗子・張源・王路・張祖英・江皓氏—
季刊水墨画28 59. 5
- ② 中国画家訪問記3—現代中国絵画の動向— 美術教育法・展覧会
季刊水墨画29 59. 7
- ② 齊白石の生涯 中国水墨画 1 60. 3

調査研究

② 評伝呉昌碩(昭和51年講談社刊「呉昌碩」収載論文の中文訳)

美術叢書 総第5期

③ 李鱗筆月季花図 国華1073 59. 6

④ 描繪黃山的作品和黃呂画山水冊の紹介 黃山画派學術討論会 59. 5

④ 黃山画派學術討論会について —中国美術史学界の現況—

美術部・情報資料部研究会 59. 6

⑤ 現代中国絵画の動向 美術部・情報資料部公開學術講座 59. 12

⑥ 現代芥子園画伝(翻訳) 日貿出版社 59. 7

⑥ 現代中国画壇の大家・董寿平(翻訳) 季刊水墨画31 60. 1

鈴木 廣之(写真資料研究室)

② 騎射と狩一韃靼人狩獵図をめぐって 国華1077 59. 10

③ 伝狩野永徳筆 伯夷叔斉図 美術研究328 59. 6

③ 研究資料 廻国道の記(2) 美術研究329 59. 9

③ 遍歴者の造形 福井県立美術館岩佐又兵衛展図録 59. 11

④ 伝狩野永徳筆 伯夷叔斉図について 美術部・情報資料部研究会 59. 5

8. その他の研究活動

ほかの機関における講義など

(氏 名)	(機 関 名)	(担 当 科 目)
伊 藤 延 男	東京工業大学非常勤講師	古文化財考古科学第二
柳 澤 孝	東京大学文学部非常勤講師	美術史学特殊
関 口 正 之	武蔵野美術大学非常勤講師	日本美術史概論
三 輪 英 夫	成城大学非常勤講師	日本近代美術史・演習
田 村 悦 子	青山学院大学非常勤講師	美術
田 實 榮 子	日本女子大学非常勤講師	服装文化史特論
蒲 生 郷 昭	東京芸術大学音楽学部非常勤講師	音楽学
羽 田 昶	武蔵野美術大学非常勤講師	中世文学演習
江 本 義 理	図書館情報大学非常勤講師	図書館資料保存法
	東京芸術大学美術学部非常勤講師	保存科学

主要研究業績

馬 淵 久 夫	東京工業大学非常勤講師	古文化財考古科学第二
新 井 英 夫	東京工業大学非常勤講師	古文化財考古科学第二
鈴 木 友 也	東京芸術大学美術学部非常勤講師	文化財保存修復概論
樋 口 清 治	東京芸術大学美術学部非常勤講師	合成樹脂特論
猪 川 和 子	東京女子大学非常勤講師	日本仏教彫刻史

Ⅳ．事 業

1. 出 版

(1) 美術研究

美術部・情報資料部所属の研究員による美術に関する調査研究の成果を公表するための機関誌で、論文・研究資料・図版解説・美術関係文献の校刊を掲載し、なお所外研究者の寄稿を受けることもある。本誌は美術部の前身である美術研究所の開設後間もない昭和7年1月に創刊され、爾来57年度末までに323号が出版された。57年度から季刊発行となり、59年度は、328号から331号までが下記の内容で刊行された。A4版、各号本文40頁(欧文抄録2頁を含む)、原色図版1、単色図版8。

美術研究 328号(昭和59年6月発行)

頁

呂洞賓といわゆる画像について 一画主の変身一	海老根聰郎…… 1
黒田清輝筆「智・感・情」をめぐる	三輪 英夫……16
伝狩野永徳筆 伯夷叔斉図(図版解説)	鈴木 廣之……27

美術研究 329号(昭和59年9月発行)

狩野芳崖晩期の山水画と西洋絵画	佐藤 道信…… 1
亜欧堂田善製作の銅版画と阿蘭陀版『全世界新地図帖』の銅版画(上)	
	菅野 陽……22
廻国道の記 二(研究資料)	鈴木 廣之……34

美術研究 330号(昭和59年12月発行)

愛媛の清涼寺式釈迦如来像	猪川 和子…… 1
亜欧堂田善製作の銅版画と阿蘭陀版『全世界新地図帖』の銅版画(下)	
	菅野 陽…… 7
梅堂浅野長祚自筆稿本『墨華塾書画銘心録・墨華塾本朝書画銘心録』	
公刊(研究資料)	田村 悦子……14
泉涌寺藏韋駄天画像(図版解説)	関口 正之……38

美術研究 331号 (昭和60年 3 月発行)

辟邪絵 ―わが国における受容―

宮島 新一…… 1

『墨華塾書画銘心録・同本朝書画銘心録』の研究

田村 悦子……24

(2) 日本美術年鑑

毎年1月初から12月末までの美術界の活動状況を記録するもので、美術界年史、展覧会記録、文献目録、物故者略歴等を収録する。美術部、情報資料部の研究員が調査執筆を行い、美術部第二研究室が編集している。本年度は昭和57年の内容をもって昭和58年版を刊行した。B 5 版、292頁。

日本美術年鑑・昭和58年版 (昭和60年 3 月発行)	頁
昭和57年美術界年史……………	1
美術展覧会(現代美術・西洋美術)……………	9
美術展覧会(東洋古美術)……………	148
美術文献目録(定期刊行物所載)(現代美術・西洋美術)……………	153
美術文献目録(定期刊行物所載)(東洋古美術)……………	243
物故者……………	264

(3) 芸能の科学15 芸能論考Ⅷ

狂言の動作單元 下

羽田 昶・松本 雍

空也踊躍念仏の伝播と伝承

中村 茂子

長唄における段切のパターンについて

加納 マリ

マクラの音楽技法

山田智恵子

民俗芸能の有効な保存伝承方法の確立に関する調査研究―その1―

三隅 治雄

(4) 保存科学

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告及び修復処置概報等を掲載している。本年度は第24号を発行した。

事業

保存科学 第24号(昭和60年3月発行)

古代漆下地の研究……………中 里 寿 克…… 31

製紙に関する古代技術の研究(Ⅲ)

—苧麻布・楮の白搗による叩解—

……………大川昭典・増田勝彦…… 17

変退色に対する光モニター……………見 城 敏 子…… 25

土製品の保存・修復研究 I

—塩類風化によって損傷をうけた土器の保存・修復—

……………青 木 繁 夫…… 33

イラン出土壺の脱塩処理における溶出物の分析……………門 倉 武 夫…… 39

コンクリート壁体のガス透過性(その2)

—シボレックスに対する燻蒸剤の挙動—

……………新井英夫・森 八郎…… 47

木彫仏像の損傷と修理……………山 崎 隆 之…… 55

壁画におけるクリーニング

……………ポール・M・シュバルツバウム, 増田勝彦(訳)…… 65

出土銅造仏像の保存修復の研究

受託研究報告第52号……………青 木 繁 夫…… 73

鉄造茶釜(永正二年在銘)の保存修復に関する研究

受託研究報告第53号……………青 木 繁 夫…… 79

彩色木彫像保存修復処理について

受託研究報告第54号……………樋口清治・今津節生…… 85

重要文化財長谷寺本堂壁画『廿五菩薩来迎図』剝落止め処理法の研究

受託研究報告第55号……………増田勝彦・樋口清治…… 95

IIC大会とICOM保存委員会大会に参加して……………三浦定俊・西浦忠輝… 105

昭和59年度修復処置概報……………修 復 技 術 部… 109

(5) 石造文化財の保存と修復

保存科学部・修復技術部の特別研究「石造文化財—石及び類似材料の保存と

修復に関する科学的・技術的研究』は8年目の最終年次に当り、これまでの研究成果をまとめ刊行した。内容は下記の通りである。

石造文化財の保存と修復（昭和60年3月発行）

—昭和52～59年度特別研究報告—

序	伊藤 延 男
I 総論	江 本 義 理
II 凍結劣化とその対策	
○概説—石造文化財の凍結—融解繰り返しによる劣化とその防止法について	三 浦 定 俊
○岩石の凍結破砕の機構	福 田 正 己
○岩石の凍結破砕に伴うAEの発生について	福 田 正 己
○合成樹脂による岩石の凍結破壊防止	三浦定俊・福田正己・西浦忠輝
○凍結—融解サイクル出現頻度の全国分布	三浦定俊・福田正己
○北海道小樽の史跡における岩石の凍結—融解繰り返しについて	福 田 正 己
III 塩類風化とその対策	
○概説—石の塩類風化について	江 本 義 理
○凝灰岩の劣化と化学組成 —大分県磨崖仏群を中心に—	馬 淵 久 夫
○石の樹脂処理と塩類風化—シラン処理石材からの水の蒸発と塩結晶による破壊挙動；石造文化財の保存・修復処置に関する研究〔II〕	西 浦 忠 輝
○千葉県館山市大福寺磨崖仏の塩類風化と保存対策について	関 陽 太 郎
○研究ノート —大谷磨崖仏のいわしおと湿度環境—	見 城 敏 子
IV 生物劣化とその対策	
○石造文化財の生物劣化とその対策	新 井 英 夫
V 保存、修復処置に関する基礎実験	
○樹脂含浸石材の圧裂引張り強度試験；石造文化財の保存、修復処置に関する研究〔III〕	西 浦 忠 輝
○石材への樹脂含浸効果（防水効果）と石の含水率との関係；石造文化財の保存、修復処置に関する研究〔IV〕	西 浦 忠 輝

事 業

- シランと有機樹脂混合による石粒の固定実験；石造文化財の保存，修復処置に関する研究〔V〕……………西 浦 忠 輝
- 再使用を目的とした古瓦の樹脂含浸処置……………西 浦 忠 輝

VI 保存，修復処置の歴史と現状

- 石造文化財の処置における合成樹脂の応用とその問題点……………樋 口 清 治
- 史跡・伝徳一廟石塔の保存修理……………伊藤延男・樋口清治
- 重文・園比屋武御嶽石門の屋根材の保存修復処置……………西 浦 忠 輝
- 生駒親正墓の保存修復……………青木繁夫・樋口清治・西浦忠輝・田辺三郎助
- 重文・定光寺観音堂の古瓦の保存，修復処置……………西 浦 忠 輝
- 調査レポート 一白杵磨崖仏の保存について
……………エディ，ドゥウィッタ・西浦忠輝(訳)

VII 資 料

- 石材ブレバート標本と岩石資料カード……………江本義理・加藤 昭・西浦忠輝
- 石造文化財修理資料検索ファイル……………三浦定俊・小室信子
- 海外文献抄訳……………三浦定俊・西浦忠輝・馬淵久夫

(6) 国際研究集会プロシーディングス

The 7th International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property—Conservation and Restoration of Mural Paintings (I)—(1984)

「壁画の保存」を主題とした，保存科学部・修復技術部担当の二年継続の国際研究集会の第一回目(58. 11. 17～11. 21)のプロシーディング(英文)を刊行した。第一回目は古墳や洞窟内の壁画の保存に関連した内容で，本プロシーディングには，発表論文，質疑応答，総合討議，特別講演などが含まれる。内容は下記の通りである。

Giorgio TORRACA: Environmental Protection of Mural Paintings in Caves

QI Yingtao: Studies on Conservation of the Grotto Temples and the Mural Paintings of Ancient Graves in China

- O. P. AGRAWAL and Kamal K. JAIN : Problems of Conservation of Wall-Paintings in India
- Paul M. SCHWARTZBAUM, Ippolito MASSARI, Giovanna PIGNATELLI and Carlo GIAN TOMASSI : Approaches to the Conservation of Mural Paintings in Underground Structures
- Takeo KADOKURA : Exhibition of the Wall-Paintings of the Tumulus Torazuka
- Takashi OKAZAKI : A Note on Mural Paintings in the Ornamented Tombs in the Kofun Period
- Terukazu AKIYAMA : The Wall-Paintings of the Tumulus Takamatsuzuka
- Kanekatsu INOKUMA : Excavation and Short Historical Survey of Takamatsuzuka Ancient Tumulus
- Shin MIYAKE : Preservation Facilities for the Tumulus Takamatsuzuka
- Sadatoshi MIURA and Heizo SAITO : Temperature and Humidity in the Tumulus Takamatsuzuka
- Hideo ARAI : Microbiological Studies on the Conservation of Mural Paintings in Tumuli
- Jacques BRUNET and Pierre VIDAL : Preservation of Ornamented Caves of France
- Kazuo YAMASAKI and Yoshimichi EMOTO : Coloring Materials Used on Japanese Paintings of the Protohistoric Period and Related Topics
- Masami FUKUDA : Rock Weathering Processes by Frost upon the Wall Carvings and its Preservation
- Eddy DE WITTE, Stefaan FLORQUIN and Alfred TERFVE : Water Repellents as Moisture Barrier for Damp Walls
- Elizabeth PYE : The Treatment of Excavated Fragmentary Wallplaster
- Zdravko BAROV : Thracian Painted Tombs Technical Notes and Conservation Procedures

事 業

Katsuhiko MASUDA : Restoration Treatment of the Takamatsuzuka Wall-Paintings

Masaru SEKINO : A Review on the Conservation of Ornamented Tumuli
Overall Discussion

Hatsushige OTSUKA : Lecture on the Tumulus Torazuka

Poster Session

Sumartoyo DARSOATMOJO : Cave Painting in Indonesia

2. 黒田清輝巡回展

黒田清輝の遺作の多くを所蔵している本研究所は、黒田清輝の功績を記念し併せて地方文化の振興に資するために、昭和52年度からの事業として黒田清輝巡回展を年1回地方において開催してきた。

本年度は特に地元の要請により福井市で開催した。

会 場 広島県立美術館

会 期 昭和59年10月20日～昭和59年11月11日

主 催 東京国立文化財研究所・広島県立美術館

開催日数 20日間

入場者数 12,981人

陳列点数 油彩・パステル60点、木炭デッサン50点、写生帖17点、書簡3点、
日記5冊、参考資料若干

図 録 A4判変型、114頁、原色版6頁、単色版80頁

3. 公開学術講座

美術部・情報資料部（第18回）

日 時 昭和59年12月1日（土） 13：30～16：30

会 場 日本経済新聞社小ホール（9階）

出版

- 講演 (1) 仏教書道一特に日本中世 美術部主任研究官 田村 悦子
(2) 現代中国絵画の動向 情報資料部写真資料研究室長 鶴田 武良

芸能部 (第16回)

日時 昭和59年12月6日(木) 18:00~20:30

会場 朝日新聞社朝日ホール

テーマ 民謡の技法

- 講演 (1) 民謡の分布 芸能部長 三隅 治雄
(2) 民謡の伝承 —今日と明日— 主任研究官 中村 茂子
実演と話 本條秀太郎・高塚とし子

松戸 サダ・石見 寿江

ヤング民謡グループ・トイチンサ

4. 夏期学術講座

美術部・情報資料部 (第2回)

美術部・情報資料部においては文化財保護の専門家あるいは博物館・美術館等の学芸員の研究進展とその業務に役立てるため、当研究所の研究員が専門分野において有形文化財の調査研究の理論と応用の実際を講義指導する趣旨のもとに、東京国立文化財研究所会議室(2階)を会場とし、別表のような日程と演題で2日間にわたり夏期学術講座を実施した。受講対象者については地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員、大学院生又は大学院修了者で将来上級職員を希望する者と限定し、年齢は30歳未満とした。本年度の受講者は38名。

別表 テーマ —鎌倉時代の美術Ⅱ—

■ 7月16日(月) ■	
10:00~10:10	開会の辞 所長 伊藤 延男
10:10~12:00	鎌倉時代の肖像画 情報資料部主任研究官 米倉 迪夫
13:20~15:10	鎌倉時代の仏画 美術部第一研究室長 関口 正之
15:20~16:20	黒田清輝記念室の見学(解説者・三輪英夫) 及び 赤外線TVによる調査の実演(解説者・柳澤 孝)

事業

■ 7月17日(火) ■	
10:10~12:00	鎌倉時代の蒔絵と技法 修復技術部第一修復技術研究室長 中里 寿克
13:20~15:10	鎌倉時代の彫刻 文化庁 文化財鑑査官 西川杏太郎
15:20~16:20	四講師に対する質問と懇談

芸能部

芸能部においては、芸能の多角的かつ総合的な研究に資することを目的として、例年、夏期4日間にわたる学術講座を実施している。会場を東京国立文化財研究所会議室とし、芸能部員がそれぞれの専門分野における研究成果を体系的に講ずるかたちをとるが、本年度は「悔過会とその周辺」というテーマを設け、7月9日から7月13日まで、別表の講演題目によって、悔過会と称される仏教行事の成立と特色、その展開の種々相をたどった。

受講対象は、これまで主として早稲田・慶応の大学院生に限定していたが、本年度から都内各大学の大学院生とし、33名の受講者があった。

— 悔過会とその周辺 —

講演者 佐藤 道子

	I (10:30~12:00)	II (13:00~14:30)	III (14:45~16:15)
7/9 (月)	日本仏教の宗脈	仏教儀礼 —表現形式のさまざま—	仏教儀礼 —表現形式のさまざま—
7/10 (火)	自行と利他	懺悔悔過	悔過から悔過会へ
7/12 (木)	悔過作法のかたち	祈願作法のかたち	悔過会と習俗 —荘厳具—
7/13 (金)	悔過会と習俗 —呪具—	悔過会と習俗 —呪法—	質 疑

5. 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修

近年、地方においては、博物館・美術館等の数が増加すると共にその施設が近代化し、くん蒸室、保存科学室、修復室等の保存に関する部門や施設設備が整備されて、学芸員のうちからこれら保存部門を担当する職員が配置されてきている。しかしそれらの職員が保存科学、技術の知識を習得しようとしても適切な学習の場や教材がないのが実情である。そのため博物館・美術館等の学芸員で保存を担当する者に対して、文化財の科学的保存に関する基礎的な知識及び技術について研修を行い、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし研修会を開催した。受講者数7名。日程及び研修題目・講師は下記の通りであった。

12月3日(月)

1. 開会式・オリエンテーション・所内見学
2. 人文科学と自然科学 所長 伊藤延男
3. 保存科学概論 保存科学部長 江本義理

12月4日(火)

4. 分析化学概論 保存科学部化学研究室長 馬淵久夫
5. 温湿度測定と機器 保存科学部主任研究官 三浦定俊
6. 文化財の計測論 三浦定俊

12月5日(水)

7. 環境概論 江本義理
8. 文化財の照明 保存科学部主任研究官 石川陸郎
9. 実習 ―光源の扱い― 石川陸郎

12月6日(木)

10. 実習 ―測定法と機器補正― 三浦定俊
11. 文化財の生物劣化 ―虫徴害― 保存科学部生物研究室長 新井英夫
12. 実習 ―生物― 新井英夫

12月7日(金)

13. 文化財の有機化学 ―漆・膠― 保存科学部物理研究室長 見城敏子
14. 展示環境調査 I ―空調機とフィルター―

事業

保存科学部主任研究官 門 倉 武 夫

15. 実 習 —展示環境Ⅰ— 門 倉 武 夫

12月8日(土)

16. 材質劣化概論 江 本 義 理

12月10日(月)

17. 実 習 —生 物— 新 井 英 夫

18. 展示環境調査Ⅱ —汚染因子— 見 城 敏 子

19. 実 習 —展示環境Ⅱ— 見 城 敏 子

12月11日(火)

20. 保存修復概論 修復技術部長 鈴 木 友 也

21. 文化財の修復と合成樹脂

修復技術部第三修復技術研究室長 樋 口 清 治

22. 実 習 —合成樹脂— 樋 口 清 治

12月12日(水)

23. 海外博物館における保存の動向 伊 藤 延 男

24. 放射線の利用 —軟X線を中心に— 三 浦 定 俊

25. 実 習 —X線撮影— 石 川 陸 郎

12月13日(木)

26. 画像処理技術の利用とその展望 三 浦 定 俊

27. 実 習 —赤外線・紫外線撮影— 石 川 陸 郎

12月14日(金)

28. 金属製品の保存修復

修復技術部第三修復技術研究室研究員 青 木 繁 夫

29. 表具の科学 修復技術部第二修復技術研究室長 増 田 勝 彦

30. 実 習 —表 具— 増 田 勝 彦

12月15日(土)

31. レポート作成・修了式

6. 会 議

文化財の保存及び修復に関する国際研究集会

昭和52年度より毎年開催している本集会の本年度(第8回)のテーマは、「壁画の保存Ⅱ」として、修復技術部の担当で開催した。前年は、地中にある壁画の保存を主題に取り上げたが、本年は、建造物に付随する壁画の保存を主題として、講演と質疑応答が行われた。土壁や石壁の壁画だけでなく、貼付壁や襖なども壁画として取り上げている日本の建造物の特殊性を海外からの参加者に理解してもらうため、第1日目の午後に、東京国立博物館裏庭にある応挙館を見学する時間を設けた。

講演者は海外9名、国内10名であった。講演は6セッションに分けて、次のような日程で行われた。

名 称 壁画の保存(Ⅱ)

—第8回文化財の保存修復に関する国際研究集—

International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property—Conservation and Restoration of Mural Paintings(Ⅱ)

日 時 昭和59年11月19日(月)～22日(木)

場 所 国立社会教育研修所

(題名及び発表者)

11月19日(月)

第1セッション(総論)

1. Painted Surface in European Architecture (ヨーロッパ建造物における彩色表面) イクロム イタリア J. ヨキレット
2. The Use of Color in Japanese Architecture (日本建築における彩色) 東京国立文化財研究所 伊藤 延男
3. Japanese Wall-painting: an Art Historical Overview (日本壁画: 美術史からの概観) 学習院大学 秋山 光和
応挙館見学(東京国立博物館裏庭)

11月20日(火)

事業

第2セッション (保存の歴史)

4. Conservation and Restoration of Mural Paintings in India (インドにおける壁画の保存と修復) 文化財コンサルタント インド R. セングプタ
5. Administrative Measures for the Conservation of Mural Paintings on Japanese Architecture (日本建築内壁画保存行政の歴史) 文化庁 鈴木 嘉吉

第3セッション (環境)

6. Mural Paintings and Their Environment (壁画とその環境) ナショナルギャラリー イギリス G. トムソン
7. Some Aspects of Humidity Protection in the Field of Historic Buildings (歴史的建造物における湿度防御の方法) サナムロ有限会社 イタリア I. マッサリー
8. Environmental Survey of Historical Wooden Buildings in the Hall of Nijo-shoin (二条城書院内の環境調査) 東京国立文化財研究所 見城 敏子

11月21日(水)

第4セッション (壁画の構造, 材質, 技法)

9. Historical View of the Techniques of Japanese Mural Paintings (日本における壁画技術の歴史的変遷) 奈良国立博物館 濱田 隆
10. Thai Traditional Mural Painting and Conservation (タイの伝統的壁画と保存) 考古局壁画保存部 タイ W. ソンクラー
11. Some Mural Paintings in Indonesian Traditional Houses and Their Problem of Conservation (インドネシアの伝統的建築の壁画) ボロブドール遺跡プロジェクト インドネシア S. シスオイヤント
12. Coloring Materials Used on Japanese Mural Paintings Within Buildings (日本建築内壁画に使用されている色料) 東京国立文化財研究所 江本 義理

第5セッション (壁画の調査)

13. Infrared Reflectography of Painting; Principles, Development and Applications (絵画の赤外線映像法; 原理・発展・応用) 国立グロニンゲン大学美術史研究所 V. ド・ボア
14. Reproduction of Colored Patterns Applied on the Buildings of Temples

and Shrines (社寺建築彩色文様復元模写について)

建築彩色文様復元模写 山崎昭二郎

15. Examining Japanese Wall-paintings (from the 7th through 14th centuries) Using Shysico-optical Methods (物理光学的方法による日本壁画の調査 (7~14世紀) 東京国立文化財研究所 柳澤 孝

11月22日(木)

第6セッション

16. Some Problems on the Damages and Restoration of Japanese Panel Paintings Within Wooden Buildings (壁画, 障壁画の保存の2, 3の問題)

文化庁 渡辺 明義

17. Exploration in Conservation and Restoration of Mural Paintings in Ancient Temples and Taoist Temples in China (中国仏教, 道教寺院内壁画の保存と修復) 文物保護科学技術研究所 徐 毓明

18. The Conservation and Restoration of the Fire-damaged Paintings of the Dome of the Al Aqsa Mosque, Jerusalem (火災による損傷を受けたドーム内壁画の保存修復, イスラエル, アルアクサ, モスク)

イクロム P. シュバルツバウム

19. Documenting the Damages of Mural Paintings (壁画損傷部の作画による調査)

東京国立文化財研究所 増田 勝彦

総合討議 司会 伊藤 延男

<参加者>

文化庁及び付属機関, 博物館・美術館職員, 諸大学研究者及び修復技術者等120名。

保存科学部・修復技術部

第14回文化財保存修復研究協議会

日 時 昭和60年2月6日(水)

会 場 東京国立文化財研究所会議室

主 題 彩色文化財の記録保存について

(模写)

文化財建造物の障壁画, 板絵, 建築部材彩色及び装飾古墳の模写は文化

事業

財保存の重要な一翼である。これら模写に対する考え方及び技法などについて研究協議する。

(発表課題・発表者)

- (1) 東西障壁模写の比較 東京芸術大学美術学部教授 平山 郁夫
- (2) 文化財保存における模写事業
文化庁文化財保護部建造物課主任文化財調査官 工藤 圭章
" 美術工芸課主任文化財調査官 渡辺 明義
" 記念物課文化財調査官 伊藤 稔
- (3) 建造物の彩色装飾の白模と復元模写
文様画師(選定保存技術保持者) 山崎昭二郎
- (4) 壁画の現状模写と復元模写 川面美術研究所長 川面 稜一
- (5) 真言八祖行状図の現状模写と復元模写
東京国立文化財研究所美術部長 柳澤 孝
- (6) 装飾古墳の模写 東京芸術大学名誉教授 日下喜一郎

第13回文化財保存科学懇談会

日時 昭和60年2月20日(水)

場所 東京国立文化財研究所会議室

本年度より機構を改め、研究所全体がこれに参加して文化庁側との意見交換の場とし、調査研究が円滑に推進され、又文化財保存事業が効果的に運営される事を目的として、文化庁側の担当技官の出席を求めて懇談した。出席者は文化財保護部長、文化財鑑査官、管理課、美術工芸課、建造物課、記念物課の担当官である。主に本年度における各部の特別研究、試験研究、受託研究、一般研究の成果を報告し、次年度の調査研究計画を説明した。特に文化庁側の情報及び資料の、研究所側への受入れ体勢について話題が多かった。

7. 国際・国内交流

所長

伊藤所長は、イタロム(ローマ国際文化財保存センター)日本政府代表に任命されており、かつその理事及び財政事業委員会委員に選出されているので、昭和59年度も5

国際・国内交流

月の総会及び11月の委員会に出席し、イクロム運営に参画した。なお5月にはあわせて東ドイツにおけるイコモス総会に出席した。また、7月には、ノルウェー国において開催された「木の保存技術に関する講習会」の講師となり日本の木造文化財(建造物・彫刻・工芸品)の特質及びその保存について講じた。

美術部

柳澤孝美術部長は米国ニューヨーク、パブリック・ライブラリーの招聘により、昭和59年6月24日から7月13日まで、同館のスペンサーコレクション白描図像類の調査に出張した。併せてフリア美術館、ボストン美術館等が所蔵する日本及び中国関係の仏教絵画の調査も行った。

芸能部

三隅治雄芸能部長は、国際交流基金の要請により、昭和59年4月6日から5月1日まで、日本民謡団と同行してパキスタン・タイ・マレーシアを訪問し、それぞれの国で研究者・舞踊家・音楽家・学生を対象に民俗芸能のレクチャーを行い、かつ、各国の民俗芸能の調査研究を行った。

佐藤道子演劇研究室長は、昭和59年12月8日から昭和60年2月6日まで、文部省短期在外研究員として、イタリア政府ボンベイ考古局に滞在し、仏教とキリスト教(主としてカトリック)の典礼に関する比較研究を行った。

保存科学部

馬淵久夫化学研究室長は、国際考古計測学シンポジウム出席のため、昭和59年5月13日から5月26日までアメリカ合衆国に出張し、青銅器の鉛同位体比に関する研究成果を発表した。

新井英夫生物研究室長は、第6回国際生物劣化シンポジウム出席のため、昭和59年7月24日から8月18日までアメリカ合衆国に出張し、未発掘古墳における微生物制御因子に関する研究を発表した。

三浦定俊主任研究官は、昭和59年8月28日から10月2日まで、フランス、デンマーク、西ドイツ、ベルギーに出張し、IIC(国際保存学会)大会及びICOM(国際博物館

事 業

会議)保存委員会大会に出席して3編の研究発表を行った。

江本義理保存科学部長は、中日協会の招きにより昭和60年3月3日から3月10日まで中華人民共和国に出張し、漢墓馬王堆一号墓から出土した遺体と副葬品の保存に関し、研究協力を行った。

修復技術部

第一修復技術研究室西浦忠輝研究員は、昭和59年4月8日から12月16日の約9か月間、日本学術振興会特定国派遣研究者(長期)として、ベルギー国、王立文化財研究所及びブリュッセル大学において、石造古建築の保存を目的とした石材の化学処置に関する調査、研究を行った。又、この間フランス国パリでのIIC大会及びデンマーク国コペンハーゲンでのICOM保存委員会大会に参加し研究発表を行った。

第二修復技術研究室長増田勝彦は、昭和59年5月1日から7月16日まで、紙本文化財修復のための基礎実技コースを受持ち、講義と実技指導を行うため、ICCROM(イタリア、ローマ市)とスミソニアン研究所CAL(アメリカ合衆国ワシントン特別区)に出張した。

第三修復技術研究室青木繁夫研究員は、昭和58年9月10日から昭和59年6月30日まで、文部省長期在外研究員として、イギリス、ロンドン大学において金属器の保存修復処理について研究。

情報資料部

情報資料部長宮次男は、米国・ハワイ大学で開催された国際会議「日本文化における法華経」に出席し、「日本における法華経絵の展開」と題して研究発表を行った。(59. 12. 16~59. 12. 25)

写真資料研究室長鶴田武良は、中華人民共和国合肥市で行われた黄山派学術討論会に出席し、近代中国画家の黄山を主題とした作品を紹介した(59. 5. 8~59. 5. 27)。また、鈴木文化庁長官の「中国との文化の交流協力についての協議」のための訪中に随行した。(59. 10. 14~59. 10. 24)

海外研究者の来訪

S. 59. 4. 1~60. 3. 31

国名	所 属	氏 名
大韓民国	文化広報部文化財管理局文化財企画 官室 行政事務官	金 鍾 焱
中華民国	台湾省政府古蹟文物考察団	呉 漢 他15名
アメリカ	ハーバード大学美術・建築学科講師	W. コールドレイク
"	アリゾナ大学	グリーン教授
トルコ	トプカプ宮殿博物館長	S. トルコグルー
中華人民共和国	上海博物館資料室副主任	丁 義 忠
"	上海博物館資料室	王 維 達
大韓民国	文化財研究所	李 浩 官
ルーマニア	ブカレスト国立美術館	C. ブラド
スリランカ	建築家	A. ド・ボス
"	モラツワ大学建築部長	N. ド・シルバ
アメリカ	ボロニア修復株式会社	G. サンチェス
"	フリーアー美術館保存担当官	P. ジェット
中華人民共和国	敦煌文物研究所訪日文物保護考察組	劉 鏞
"	"	孫 儒 倜
"	"	李 雲 鶴
"	"	段 修 業
"	"	劉 永 増
アメリカ	J. ポール・ゲティ博物館装飾美術 保存担当	B. ロバーツ
西ドイツ	リンデン博物館	K. J. ブラント
大韓民国	円光大学校副教授	洪 潤 植
中華民国	行政院文化建設委員会副主任委員	孔 秋 泉
アメリカ	アリゾナ大学	ギブナー教授
スリランカ	ペラデニヤ大学考古学部	P. L. プレマティレケ
アメリカ	美術品保存家	L. メルク
"	ワシントン大学	P. ゲルパー
インドネシア	セプルー工学研究所衛生工学部	Y. T. ウェイス
中華人民共和国	中国北京故宮博物院高級工程師	于 倬 雲
"	中国都市農村建設環境保護部建築設 計院高級工程師	田 大 中
"	中国北京故宮博物院工程師	傅 連 興
"	中国北京故宮博物院工程師	陸 金 根

事業

〃	中国都市農村建設環境保護部建築設計院工程師	範 世 凱
〃	中国都市農村建設環境保護部建築設計院工程師	顧 惠 霞
〃	中国都市農村建設環境保護部建築設計院工程師	金 久 忻
〃	中国文化部文物事業管理局計財処副処長	張 玄 文
〃	中国文化部对外文化聯絡局亞洲処	所 洪 潔
ハンガリー	ハンガリー国立歴史記念物研究所	A. ペトラヴィッチ
アメリカ	セントルイス美術館	D. D. パーク
(ネパール)	ユネスコアジア太平洋地域事務所文化顧問	T. W. ウプライティ
中 華 民 国	中国市政専科学学校講師	閻 亜 寧
イ ギ リ ス	ウインザー城王立図書館	J. ロバーツ
〃	〃	O. オースロン
大 韓 民 国	文化情報省文化財保護室員	J. H. Kim
ア メ リ カ		A. スティンゲエカム
ギ リ シ ア	コルフアジア美術館	A. カラマス
ア メ リ カ	カルフォルニア大学	J. ケーヒル
イ ギ リ ス	台湾大学	R. スタンリー
〃		ペーカー
ア メ リ カ	ペンシルバニア大学	A. スワン
〃	メトロポリタン美術館	J. モストウ
カ ナ ダ	ブリテイッシュコロンビア大学	B. フォード
		H. ハリエット

招へい研究員

昭和53年度より招へい研究員の制度が設けられ、本年度は国外4名、国内1名の研究員に研究が委嘱され、下記のように共同研究が行われた。

1) ギャリー・トムソン(イギリス ナショナルギャラリー科学部長)

共同研究課題 文化財の保存環境

研究代表者 保存科学部長 江本 義理

委 嘱 期 間 59年11月18日～12月16日

2) サミディ・シスオイヤント(インドネシア ボロブドール保存プロジェクト保存処置担当主任)

共同研究課題 1. インドネシアの建造物の壁画装飾の実情とその保存修復について

て

2. 石の劣化とその修復について

研究代表者 保存科学部長 江本 義理

委嘱期間 59年11月17日～12月1日

3) ワニバー・ナ・ソクラー(タイランド考古局壁画保存部保存担当官)

共同研究課題 東洋壁画の保存修復の研究

研究代表者 修復技術部長 鈴木 友也

委嘱期間 59年11月17日～12月18日

4) 金 東賢(韓国 国立文化財研究所保存科学研究室長)

共同研究課題 文化財保存修復の研究

研究代表者 修復技術部長 鈴木 友也

委嘱期間 59年11月18日～12月1日

5) 奥平 俊六(大阪府立大学総合科学部日本文化講座講師)

共同研究課題 日本絵画における画中画の研究

研究代表者 情報資料部長 宮 次男

委嘱期間 60年2月12日～3月28日

職員の海外出張及び研修旅行

①渡航先 ②目的 ③期間 ④ 旅費の出途

三隅 治雄

① パキスタン, タイ, マレーシア各国

② 日本民謡についてのレクチャー及び訪問国の民謡芸能の調査

③ 59.4.6～59.5.1

④ 国際交流基金

西浦 忠輝

① ベルギー, フランス, デンマーク他

② 石造古建築の保存を目的とした石材の化学処置に関する調査, 研究

③ 59.4.8～59.12.16

④ 日本学術振興会

事 業

増田 勝彦

- ① イタリア, アメリカ合衆国
- ② 紙本美術品修理コースの実施・監督
- ③ 59.5.1~59.7.17
- ④ イクロム

伊藤 延男

- ① イタリア, ドイツ民主共和国
- ② イクロム総会及び理事会並びにイコモス総会出席
- ③ 59.5.3~59.5.19
- ④ 文部省

鶴田 武良

- ① 中華人民共和国
- ② 紀念漸江大師逝世320周年黄山画派學術討論会出席
- ③ 59.5.8~59.5.27
- ④ 自 費

馬淵 久夫

- ① アメリカ合衆国
- ② 1984国際考古計測学シンポジウム出席
- ③ 59.5.13~59.5.26
- ④ 自 費

三隅 治雄

- ① 大韓民国
- ② 大韓国民俗芸能の調査
- ③ 59.5.24~59.5.31
- ④ 国際交流基金

柳澤 孝

- ① アメリカ合衆国
- ② スポンサーコレクションの日本美術の調査
- ③ 59.6.24~59.7.13

④ スポンサーコレクション

伊藤 延男

① ノルウェー国

- ② ニネスコ、イクロム及びノルウェー技術研究所(NIT)が共同で開催する「木の保存技術に関する講習会」での講師

③ 59.7.11～59.7.20

④ イクロム

新井 英夫

① アメリカ合衆国

- ② 第6回国際生物劣化シンポジウム出席及びアメリカにおける文化財保存科学調査

③ 59.7.24～59.8.18

④ 自費

三浦 定俊

① フランス、デンマーク、西ドイツ、ベルギー各国

- ② IIC及びICOM保存委員会大会出席

③ 59.8.28～59.10.2

④ 自費

鶴田 武良

① 中華人民共和国

- ② 中華人民共和国との文化交流、協力についての協議及び文化事情視察

③ 59.10.14～59.10.24

④ 文部省、中華人民共和国

伊藤 延男

① イタリア国

- ② イクロム財政事業委員会出席

③ 59.11.9～59.11.16

④ イクロム

佐藤 道子

事業

① イタリア, スペイン, フランス, イギリス各国

② 宗教儀礼の比較研究

③ 59. 12. 8~60. 2. 7

④ 文部省在外研究員旅費

宮 次男

① アメリカ合衆国

② 国際会議「日本文化における法華経」の出席とホノルル美術館の日本絵画調査

③ 59. 12. 16~59. 12. 25

④ ハワイ大学他

江本 義理

① 中華人民共和国

② 漢墓馬王堆一号墓出土遺体及び副葬品の保存に関する中国研究者との共同研究

③ 60. 3. 3~60. 3. 10

④ 中日協会

V. 研究施設・設備

1. 蔵 書

美術関係図書

日本・東洋古美術，日本近代・現代美術，西洋美術の全般にわたる研究書を中心に，関連図書，各種叢書，辞典類など，和漢書(37,646)，洋書(3,991)，計41,637冊のほか，各都道府県市町村教育委員会編集の文化財関係報告書，美術関係雑誌，紀要類，売立目録，展覧会目録などを所蔵し，部内外及び研究所外の研究者の利用に供している。

芸能関係図書

雅楽・寺事・能・歌舞伎・文楽・邦楽・邦舞・民俗芸能・寄席芸，その他わが国の伝統芸能の研究に必要な図書7,278冊を所蔵する。演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎(第1次)・テアトロ(第1次)・新劇・上方・民俗芸術・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説などの雑誌，それに声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本も収集している。

保存科学・修復技術関係図書

古来の伝統的生産及び工芸技術書，技術史，又は数少ないそれらの科学的究明を試みたもの，修理工事報告書，及び化学・物理学・生物学部門の保存科学に関連ある和洋書を合わせて2,484冊を所蔵している。

過去3年間における収書数と総計は次表のとおりである。

区 分	美術関係		芸能関係		保存科学・修復技術関係		計
	和漢書	洋書	和漢書	洋書	和漢書	洋書	
57年度	822冊	39冊	438冊	0冊	26冊	24冊	1,349冊
58年度	337 "	34 "	281 "	3 "	19 "	32 "	706 "
59年度	609 "	17 "	124 "	0 "	18 "	30 "	798 "
総 数	37,646 "	3,991 "	7,334 "	68 "	1,516 "	968 "	51,523 "

研究施設・設備

2. 出版物

美術部・情報資料部

(1) 美術研究

昭和7年より同60年3月までに通算331号を刊行した。

(2) 日本美術年鑑

昭和11年創刊。毎年1冊(ただし昭和19～21, 同22～26, 同49～50年は各合冊)出版し, 昭和60年3月までに40冊を刊行した。

(3) その他の出版物

支那古版図録	(美術研究資料第1輯)	昭和7
吉備大臣入唐絵詞	(美術研究資料第2輯)	昭和9
徽宗摹張萱搗練図	(美術研究資料第3輯)	昭和10
鳳凰堂雲中供養仏	(美術研究資料第4輯)	昭和11
桃山時代金碧障壁画	(美術研究資料第5輯)	昭和12
富貴寺壁画	(美術研究資料第6輯)	昭和13
印度及南部アジア美術資料	(美術研究資料第7輯)	昭和14
光悦色紙帖	(美術研究資料第8輯)	昭和14
菱田春草	(美術研究資料第9輯)	昭和15
能恵法師絵詞	(美術研究資料第10輯)	昭和15
宮素然筆明妃出塞図卷	(美術研究資料第11輯)	昭和16
日本美術資料	第1輯	昭和13
日本美術資料	第2輯	昭和14
日本美術資料	第3輯	昭和15
日本美術資料	第4輯	昭和16
日本美術資料	第5輯	昭和17
近代日本美術資料	第1輯	昭和23
近代日本美術資料	第2輯	昭和24
近代日本美術資料	第3輯	昭和26

出 版 物

墨跡資料集	第1輯	昭和24
墨跡資料集	第2輯	昭和24
墨跡資料集	第3輯	昭和26
源氏物語絵巻		昭和24
黒田清輝素描集		昭和24
栄山寺八角堂		昭和25
栄山寺八角堂の研究		昭和26
法隆寺金堂建築及び壁画の文様研究		昭和28
黒田清輝作品集		昭和29
高雄曼荼羅		昭和41
明治美術基礎資料集		昭和50
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで	昭和16
東洋美術文献目録続編	昭和11年～同20年	昭和23
東洋古美術文献目録	昭和21年～同25年	昭和29
美術研究索引	第1号～第100号	昭和16
美術研究総目録	第1号～第230号	昭和40
東洋美術文献目録	明治以降昭和10年まで(再刊)	昭和42
日本東洋古美術文献目録	昭和11年～同40年	昭和44
日本絵画史年記資料集成(10世紀～14世紀)		昭和59

ほかに科学研究費補助金(研究成果刊行費)の交付を受け、又は本研究所の監修で刊行された図書は次のとおりである。

光学的方法による古美術品の研究

東京国立文化財研究所光学研究班編	吉川弘文館	昭和30
梁楷	美術研究所編 便利堂	昭和32
醍醐寺五重塔の壁画	高田 修編 吉川弘文館	昭和34
平安時代世俗画の研究	秋山光和著 吉川弘文館	昭和39
近代日本美術の研究	隈元謙次郎著 大蔵省印刷局	昭和39
黒田清輝	隈元謙次郎著 日本経済新聞社	昭和41

研究施設・設備

扇面法華經	秋山 柳澤 鈴木 光孝 敬三 著	鹿島出版会	昭和47
金字塔塔曼陀羅	宮 次男著	吉川弘文館	昭和50
黒田清輝素描集	東京国立文化財研究所編	日動出版	昭和57

芸 能 部

標準日本舞踊譜		創芸社	昭和35
音盤目録 I	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和41
改訂 標準日本舞踊譜		創思社	昭和41
芸能の科学 1	—芸能資料集 I 四世鶴屋南北作者年表		昭和42
芸能の科学 2	—芸能資料集 II 鮫の神楽台本集成		昭和42
音盤目録 II	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和46
東大寺修二会	観音悔過(お水取り)		
	東京国立文化財研究所芸能部監修	日本ビクター	昭和46
芸能の科学 3	—芸能論考 I		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和47
芸能の科学 4	—芸能資料集 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和48
芸能の科学 5	—芸能論考 II		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和49
芸能の科学 6	—芸能調査録 I 「東大寺修二会の構成と所作」(上)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和50
芸能の科学 7	—芸能調査録 II 「東大寺修二会の構成と所作」(中)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和52
芸能の科学 8	—芸能論考 III		
	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和52
芸能の科学 9	—芸能論考 IV		
	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和53
音盤目録 III	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和53

出 版 物

芸能の科学10	—芸能論考V		
	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和54
芸能の科学11	—芸能論考VI		
	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和55
芸能の科学12	—芸能調査録Ⅲ「東大寺修二会の構成と所作」(下)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和55
芸能の科学13	—芸能調査録Ⅵ「東大寺修二会の構成と所作」(別)		
	東京国立文化財研究所芸能部編	平凡社	昭和57
芸能の科学14	—芸能論考Ⅶ		
	東京国立文化財研究所芸能部編		昭和57
音盤目録Ⅲ 改訂版	東京国立文化財研究所編		昭和58
芸能の科学15	—芸能論考Ⅷ		昭和59

保存科学部・修復技術部

(1) 保存科学

昭和39年3月創刊になる保存科学部・修復技術部の機関誌で、年1回の刊行により昭和60年3月迄に24号を刊行した。

(2) 受託研究報告 重要文化財円成寺本堂内陣彩色剥落どめ他18件 昭和35～昭和42

(3) 表具の科学(特別研究・軸装等の保存及び修復技術に関する科学的研究報告書)

昭和53

(4) 石造文化財の保存と修復(昭和52～50年度特別研究報告書)

昭和60

国際研究集会報告書

Proceedings of International Symposium on the Conservation and Restoration of Cultural Property.

The 1st International Symposium

Nov. 24-28, 1977, Tokyo, Nara and Kyoto, Japan

—Conservation of Wood— (1978)

研究施設・設備

The 2nd International Symposium

Nov. 27-30, 1978, Tokyo and Tsukuba, Japan

—Cultural Property and Analytical Chemistry— (1979)

The 3rd International Symposium

Nov. 26-29, 1979, Tokyo, Japan

—Conservation of Far Eastern Art Objects— (1980)

The 4th International Symposium

August. 6-9, 1980, Tokyo, Japan

—Preservation and Development of the Traditional Performing Arts— (1981)

The 5th International Symposium

October 6-9, 1981, Tokyo, Japan

—Interegional Influences in East Asian Art History— (1982)

The 6th International Symposium

November 1-6, 1982, Tokyo and Saitama, Japan

—the Conservation of Wooden Cultural Property— (1983)

The 7th International Symposium

November 17-21, 1983, Tokyo, Japan

—Conservation and Restoration of Mural Painting (I)— (1984)

3. 資 料

美術関係資料

実物よりの直接撮影による写真を含む写真資料の作成整理と、購入写真、複写写真による補足整備に加えて、印刷物中の図版をもおさめるという方式で、当研究所設立当初より一貫して力を注いできた写真資料を有する。それらは日本東洋古美術、日本近代・現代美術、西洋美術の全域にわたり、それぞれ絵画、書蹟、彫刻、工芸、建築等の諸部門に及ぶ。特別大型のものから小型のものまで総数凡そ26万点、原板保有量はほぼ3分の1にあたり、別にマイクロ・フィルム255巻がある。写真資料のほか、拓本、作家伝記資料、落款印章資料、近代・現代作家・団体・作品資料、資料スクラ

ップ等と、図書カード、図版カード、各種索引類など多数。

芸能関係資料

レコード・録音テープ・写真(8ミリ・16ミリシネを含む)等による芸能資料を多数そなえている。レコードには、毎年各製作会社から発売される伝統芸能関係レコードのほか、昭和35年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションレコード5,450枚が含まれている。安原コレクションは、明治・大正・昭和三代にわたって発売された各種邦楽レコードを網羅したもので、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。録音テープ及び写真は、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・邦舞・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能を対象に記録してきたもので、演奏法の解析を中心とした写真・テープ、あるいは各種文書の記録写真等も含んでいる。種別による所蔵数は次のとおりである。

区 分	レコード	録 音 テ ー プ		シネフィルム		ビデオ テープ
		従来方式	P C M方式	8 mm	16mm	
昭和57年度 までの累計	6,932枚	2,470本	40本	198本	4本	80本
昭和58年度	66 "	60 "	40 "	0 "	0 "	25 "
昭和59年度	28 "	60 "	2 "	0 "	0 "	30 "
計	7,026 "	2,590 "	82 "	198 "	4 "	135 "

4. 機器・設備

美術部・情報資料部

機 器

1. X線透過撮影装置

- | | |
|----------------------|----|
| (1) 可搬式ソフテックス装置(J型) | 1式 |
| (2) 可搬式ソフテックス装置(新J型) | 1式 |

研究施設・設備

- | | |
|---|----|
| (3) 携帯用ソフテックス装置(E型) | 1式 |
| 2. 紫外線照射装置 | |
| (1) 可搬式照射装置(フィリップス紫外線ランプ及び専用トランス) | 2台 |
| (2) 携帯用紫外線検査器 | 1台 |
| 3. 顕微鏡装置 | |
| (1) 双眼実体顕微鏡及び写真装置 | 1式 |
| (2) 新型双眼実体顕微鏡及びカラー顕微鏡写真同時撮影装置(可動支持台及び携帯用スタンド) | 1式 |
| (3) 検査顕微鏡用側視鏡ユニット・モノフォト装置 | 1式 |
| (4) 比較顕微鏡型Ⅲ型 | 1式 |
| 4. 赤外線テレビ関係設備 | |
| (1) 移動式架台 | 1式 |
| (2) テレビカメラ(ライト,ズームレンズ付) | 1式 |
| (3) ビデオ装置 | 1式 |
| (4) モニターテレビ | 2台 |
| (5) 高解像モニターテレビ | 1台 |
| (6) 赤外線テレビカメラ架台および三脚 | 1式 |
| 5. マイクロ写真関係設備 | |
| (1) マイクロ写真撮影装置(自動現像機,プリンター,引伸機・乾燥機等付) | 1式 |
| (2) ポータブル・マイクロ写真撮影装置 | 1式 |
| (3) マイクロ閲読機(ルーモ社製) | 3台 |
| (4) リーダープリンター | 1台 |
| 6. デアスコープ(視聴覚教育装置) | |
| | 1台 |
| 7. カメラ類 | |
| (1) リンホフカルダン | 1台 |
| (2) リンホフテヒニカ | 3台 |
| (3) コメット・ストロボ CP-1200 DX | 1台 |
| (4) 工業用ファイバースコープ | 1式 |

機器・設備

8. 引伸機

- | | |
|--------------|----|
| (1) オメガ(4×5) | 2台 |
| (2) フジA690 | 1台 |
| (3) フジS69 | 1台 |
| (4) オメガ(5×7) | 1台 |

9. 複写台

- | | |
|-------------------|----|
| (1) コピースタンド(1300) | 1台 |
| (2) スライドコピア MD400 | 1台 |

10. 乾燥機FCオート(全紙) 2台

- | | |
|---------------------------|----|
| 11. ドライマウント シールコマーシャル210M | 1台 |
| ドライマウント シールコマーシャル70 | 1台 |

12. マルチカードセクター(HAC 841 S型) 1式

13. 複写機 ハイカードL 1台

14. 製本機

- | | |
|------------------|----|
| (1) サーマイバインドT200 | 1台 |
| (2) ホリゾンBQ-18L | 1台 |
| (3) 電動断裁機PC-45 | 1台 |

15. プロジェクター キャビンAF-2500 1台

16. タイプライター オリベッティET-221 1台

芸 能 部

機 器

1. 分析機器

- | | |
|--------------|----|
| (1) ピッチレコーダー | 1台 |
| (2) メログラフBT型 | 1式 |

2. オーディオ関係機器

- | | |
|---------------|-----|
| (1) レコードプレーヤー | 8台 |
| (2) テレビ | 2台 |
| (3) テープレコーダー | 18台 |

研究施設・設備

(4) ビデオテープレコーダー	5台
(5) ステレオ音声調整卓	1台
(6) スピーカー	4個
(7) テープダビングシステム	1式
(8) 屋外取材用音声機器システム	1式
(9) P. C. M. 音響システム	1式

3. 撮影・影写機器

(1) 16mm撮影機	1台
(2) 16mm映写機	1台
(3) 8mm撮影機	4台
(4) 8mm映写機	2台
(5) 35mm写真機	7台
(6) 35mmマイクロフィルム解読装置	1台
(7) 16mmマイクロフィルム解読・複写装置	1台
(8) 16mmマイクロ写真機	1台
(9) 16シネフィルム分析装置	1台
(10) リーダー・プリンター	1台
(11) ビデオカメラ	2台
(12) ビデオバッテリー	2個

4. 照明器具

(1) スタジオ用照明器具	1式
---------------	----

5. 楽 器

(1) ピアノ	1台
(2) 箏	1面

保存科学部・修復技術部

1. 機 器

(1) サンシャインスパーロングライフウェザーメーター(劣化促進試験機)

1台

機器・設備

- | | |
|--|----|
| (2) 万能試験機(島津, オートグラフ, インストロン型, 10トン) | 1式 |
| (3) 回折格子光照射器 | 1台 |
| (4) 紙耐揉強度試験機 | 1台 |
| (5) 衝撃試験機(シャルピー, アイゾット兼用) | 1台 |
| (6) 紙耐折試験機(MIT) | 1台 |
| (7) 凍結融解試験機(コイトロン HNL-T 特殊型) | 1台 |
| (8) シュミットハンマー(圧縮強度測定用) | 1台 |
| (9) カラーコンピューター(スガ試験機 SM-3) | 1台 |
| 2. 顕微鏡装置 | |
| (1) 金属顕微鏡 | 1台 |
| (2) 生物顕微鏡 | 1台 |
| (3) 表面アラサ顕微鏡 | 1台 |
| (4) 万能顕微鏡 | 1式 |
| (5) 走査型電子顕微鏡(JSM-50 A型) | 1式 |
| 3. 分析装置 | |
| (1) ガスクロマトグラフ(ガス分析, 水素イオン化検出器・熱伝導検出器・熱分解装置付) | 1式 |
| (2) ボーターガスアナライザー(MIRAN-1型) | 1式 |
| (3) 回折格子自記赤外分光光度計 | 1台 |
| (4) " 赤外顕微鏡 | 1台 |
| (5) 自動記録式示差熱天秤 | 1式 |
| (6) 炭素・水素・窒素分析計 | 1式 |
| (7) 光電分光光度計(自記) | 1台 |
| (8) 蛍光X線分析装置(標準型及び非破壊用大型試料台つき) | 1式 |
| (9) 可搬式蛍光X線分析装置(現場可搬用) | 1式 |
| (10) X線回折装置及びデバイシェラーカメラ, ラウエカメラ(結晶同定) | 1式 |
| (11) 文化財測定用X線回折装置 | 1式 |
| (12) 発光分光分析装置(MI 型)(高圧整流スパーク, 直流アーク) | 1式 |
| (13) カラム用循環恒温槽 | 1台 |

研究施設・設備

(14) 超音波洗浄機	1台
(15) 細管式等速電気泳動装置	1台
(16) 赤外分光光度計	1台
(17) 固体用質量分析計	1式
(18) 原子吸光光度計	1式
4. 非破壊検査装置	
(1) 工業用X線発生装置(60 KVP, 4 mA)	1式
(2) 工業用X線発生装置(200 KVP, 8 mA)	1台
(3) Cs-137 γ 線線源(透視用 2 Ci)	1個
(4) 赤外線 TV カメラ装置	1式
(5) 超音波探傷器 UFC-201 型	1台
(6) 超音波式コンクリート試験器	1台
(7) " 厚み測定器	1台
(8) シングアラウンド式音速測定装置 UVM-2	1式
5. 物性測定機	
(1) 粒度分布測定装置	1式
(2) 熱膨張計	1台
(3) レオメーター(粘性試験用)	1式
(4) 直読式動的粘弾性測定器	1台
(5) 真空蒸着装置(表面薄膜形成用)	1台
(6) 簡振盪機(標準フルイ付)	1台
(7) 明石ロックウエル硬度計 ARK-B	1台
(8) ゴニオメーター(接触角測定機)	1台
(9) ゼーター電位測定装置	1式
(10) PHメーター	1台
(11) 透水試験機	1台
(12) 表面張力測定機	1台
(13) 万能デジタル計測システム(ユーカム 8)	1式
(14) フィールドメモリー	1台

6. 照明及び温湿度装置

(1) 恒温恒湿室(5~40°C, 40~90%)	1台
(2) 自記分光放射計(光源の分光測定)	1台
(3) ライトガイドカラーメーター(色彩測定)	1台
(4) 恒温恒湿槽(0°~40°C, 20~90%)	1台
(5) 風速計(熱式)AM01	1台
(6) サーモダック II	1台
(7) 恒温恒湿槽(-30°~80°C, 5~95%)	2台
(8) 卓上型恒温恒湿器	1台
(9) 紫外線強度計	1台

7. 殺虫殺菌装置

(1) 滅菌装置	2台
(2) 滅圧殺虫装置	1台
(3) ガス滅菌装置 GS-15 特型	1台

8. 生物実験用機器

(1) 超低温槽(-50°C)	1台
(2) 冷却遠心機(-20°~5°C)	1台
(3) ピンホールサンプラー	1台

9. 環境汚染測定装置

(1) 粉塵計(記録装置付)	1式
(2) 悪臭分析装置	1式

10. 修復処置装置

(1) 真空凍結乾燥装置	1式
(2) 滅圧含浸装置	1式
(3) エヤーブラッシュ装置	1式
(4) 合成樹脂圧入装置	1式
(5) 水浸木材用含浸装置	1式
(6) 熱風恒温乾燥機	1台
(7) 装漬用備品	1式

研究施設・設備

(8) 万能木工機	1台
(9) 漉 嵌 機	1台
(10) 超音波発生装置	1台
(11) 蒸 溜 器	1台
(12) ライスター熱風機	1台
(13) ダスティーバック	1台
(14) 定温乾燥器	1台
(15) 斜光照明装置	1式
11. 情報処理装置	
(1) PC-8800 システム	1式

12. クリーンルーム設置

昭和60年1月、保存科学部の暗室(17 m²)を改造しクリーンルームを設置した。

5. 黒田記念室

黒田記念室は、本研究所の創立者故帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であって、黒田清輝の油絵・素描・写生帳等を収蔵している。

創立当時主として黒田家から寄贈されたものは、油絵125点、素描170点、写生帳等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なるものは、「知・感・情」・「花野」・「湖畔」・「赤髪の少女」・「もるる日影」・「温室花壇」等である。

昭和52年度より、黒田清輝作品の地方巡回展を行い、本年度は広島県立美術館で開催した。

なお、同記念室は次のとおり一般に公開しているが観覧の日時は毎週木曜日午後1時から同4時までとし、観覧を停止する日は次の通りとなっている。

祝 日

開所記念日(10月18日)

年末年始(12月25日から翌年1月6日まで)

夏期(7月21日から8月31日まで)

閱 覧 室

必要があるときは日時を随時変更することがある。

6. 閱 覧 室

本研究所情報資料部の図書写真及び各種研究資料は主として研究者・学者・美術関係専攻の学生等の利用に供している。年間の閲覧者数は、約400名である。

東京国立文化財研究所要覧（昭和59年度）

昭和60年8月10日 発行

発行所 東京国立文化財研究所

〒110 東京都台東区上野公園13-27
電話（823）2241（代）
